

アクティブ・ラーニングに関する

# 実態調査報告書 2024

藤林 真美 編

『主体的・対話的・深い学び』のための授業スキルに関する  
実態調査およびその研修の効果検証」研究プロジェクト

2024 年 1 月

## 巻頭言

### 「教える」から「学ぶ」へ

学生の能動的な学修として一般的に知られるアクティブ・ラーニングは、2012年8月に文部科学省の中央教育審議会における答申「新たな未来を築くための質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」として取りまとめられました。私たちが暮らす社会は、グローバル化や情報化の進展など社会の急激な変化により、不確実で複雑、予測不可能な時代に突入したとされます。このような社会において、知の創造と蓄積を担う自律的な存在である大学には、答えのない問題に解を見出していくための批判的・合理的思考力、想定外の困難に際して的確な判断ができるための基礎となる教養・知識・経験といった「学士力」の醸成が求められています。その成果を上げるためには、ディスカッションやディベートといった双方向の授業、主体的な学修体験の積み重ねが必要で、更にこれらの学びは、学生が生涯学び続け、主体的に考える力の修得につながると考えられています。

一方で、教える側である大学教員は、アクティブ・ラーニングに主体的に取り組んでいるでしょうか。「大学教員のアクティブ・ラーニングに対する意欲、動機付けや態度は、学生の学修機会や効果が十分に期待できるだけの諸条件を満たしているのだろうか?」「大学教員側の制度的、心理的要因がアクティブ・ラーニング普及の足枷となっているのではないか?」こういった疑問は、コロナ禍で教育のかたちが大きく変化するなかで、我々プロジェクトメンバーにとって大きな関心事となっていました。

時を同じくして、大学コンソーシアム大阪が会員大学の主体的な参画・協力による事業の改善・充実等につなげてゆくことを目的に、研究事業の公募を新設されたことを知りました。我々は早速この事業に応募、「『主体的・対話的・深い学び』のための授業スキルに関する実態調査およびその研修の効果検証」と題した研究を採択いただき、摂南大学・大阪信愛大学・大阪国際大学の三大学で連携し進めてまいりました。本研究ではとりわけ、大学教員のアクティブ・ラーニングに対する積極的態度に着目し、関係する要因について検討いたしました。多くの皆さまにご協力いただき、今後のアクティブ・ラーニングのあり方を検討するうえで有用な結果を得ることができましたので、ここにご報告させていただきます。

2021年4月には、中央教育審議会が「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」と題した答申をまとめています。ここには、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」に即した具体的な教育方法が分かりやすく説明されていますが、主体的・対話的で深い学びの実現は、新しい社会においても重要な考え方として生きてゆくものと思われれます。我々の研究がアクティブ・ラーニングに関する議論の一端として貢献できれば幸甚です。

最後になりましたが、本研究の遂行にあたり、大学コンソーシアム大阪ならびに本研究事業にご関係の皆さま、アンケートにご協力いただいた加盟大学の先生方、ご支援ご協力いただいた全ての方々へ、心よりの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

2024年1月

蠟梅の薫る枚方にて

研究者代表 摂南大学農学部 教授 藤林真美

# アクティブ・ラーニングに関する 実態調査報告書 2024／目次

## 巻頭言

### I 成果報告

#### 1 研究プロジェクトのねらいと取り組みについて

1.1 本研究プロジェクトのねらい	3
1.2 本研究プロジェクトでの取り組み	3
1.3 研究体制と調査の概要	4

#### 2 教員の授業実施実態の把握：教員実態調査の集計

2.1 回答者の属性等	6
2.2 普段の授業への取り組み姿勢	8
2.3 多様な学びのスタイルについての実施程度	10
2.4 AL に対する姿勢・評価	12
2.5 研修会への参加経験と実践した経験	13
2.6 教員実態調査から考えられる点	15

#### 3 「主体的・対話的・深い学び」を目指した研修会の効果

3.1 研修会参加者を対象とした調査 1：学生研修会時調査の集計	15
3.2 研修会参加者を対象とした調査 2：ABD 研修会時調査の集計	18
3.3 研修会参加者を対象とした調査 3：ファシリテーション研修会時調査	22
3.4 研修会参加者を対象とした調査 4：事例報告・WS 研修会時調査	25
3.5 研修会時に実施した 4 調査から見えてくる可能性	29

### II 資料

学生研修会時調査 調査票	35
研修会時調査 調査票 A	37
研修会時調査 調査票 B	39
教員実態調査 調査票	41
教員実態調査 基礎集計	45



# I 成果報告





## 1 研究プロジェクトのねらいと取り組みについて

### 1.1 本研究プロジェクトのねらい

大学教育では、予測不能な時代を生き抜くために、未来を想像し、課題の発見と解決できる創造的な人材を育成することが重要である。そのための学びの場として、地域などでのPBL、教室での反転授業や課題発見・解決型授業などの「主体的・対話的・深い学び（アクティブ・ラーニング，AL）」を創出する必要があると、多くの大学で実施を目指していると思われる。しかしながら、その運営体制や教員の教育力・授業スキルに関する課題もあると考えられる。

本研究では、「主体的・対話的・深い学び」の実施体制（学生サポーターを含む）に関する課題の解決および教員の授業スキルの向上を目的として、AL型授業の実態調査（質問紙を用いた計量的調査）を行う。またそれとともに、教員のファシリテーション力養成研修およびAL型授業の学生サポーター研修などを実施する。こうした研修会参加者に対しても質問紙調査をおこない、研修会の効果についての検証を行う。以上のプロセスを通じて、AL型授業の現状を把握すると共にその展開の方策を探ることが、本研究のねらいである。

### 1.2 本研究プロジェクトでの取り組み

本研究において取り組む内容は主に2つである。1つは、教育機関において「主体的・対話的・深い学び」が、現時点でどれくらい広がりを見せているのか、という点を把握することである。このため本研究ではAL型授業の実施状況、実施体制および教員の授業スキルに関するアンケート調査を、大学コンソーシアム大阪加盟大学所属教員に対して実施した。このデータ解析を通じてAL型授業の導入程度や教員における理解度の実態と、導入を阻害する要因について検討していけるようにすることが目標である。

もう1つは、「主体的・対話的・深い学び」をより広めていくための、研修会のありようとその効果を確認することである。上述の通り、「主体的・対話的・深い学び」が今後もさらに浸透していくことが期待されている。ただし、このようなスタイルの学びは放っておけば自然と広がるようなものとはいいがたいため、何らかの「しかけ」を講じるが必要になってくる。その1つとして本プロジェクトで試みようとしたのが、「主体的・対話的・深い学び」の実践を通して、知識を提供する側がそのスタイルの意味・意義・有効性を実感できるような場を設けることである。

具体的には、以下のようなAL型授業のための種々の研修会を実施した。

- 1) 教育手法のひとつであるアクティブ・ブック・ダイアログ®を実践的に学ぶ研修会
- 2) ファシリテーションの構造理解を目指した研修会

- 3) 主体的・対話的・深い学びの実践事例報告とそれに伴う省察，報告をふまえたワークショップを行う研修会
- 4) ピアサポーターなど，学生の学びを支援する学生たちのチームビルディング力とファシリテーション力を養成するための研修会

また，研修会の中では参加者に対して研修会への評価等を訊ねる調査を実施した。この調査結果を通じて，AL型授業がより幅広く取り入れられていくための効果的な方策について検討していくことも，本研究プロジェクトの目標の1つになる。

### 1.3 研究体制と調査の概要

『主体的・対話的・深い学び』のための授業スキルに関する実態調査およびその研修の効果検証」研究プロジェクトのメンバーと，実施した調査の概要は以下のとおりである。

プロジェクトメンバー<sup>1</sup>：

- 藤林 真美（摂南大学 農学部 教授 ※研究代表）
- 山本 圭三（摂南大学 経営学部 准教授 ※調査責任担当）
- 上野山 裕士（摂南大学 学長付 講師）
- 後和 美朝（大阪国際大学・人間科学部・教授）
- 竹中 泉（大阪信愛学院大学・看護学部・教授）
- 竹端 佑介（大阪国際大学・人間科学部・准教授）
- 和田 泰一（摂南大学 法学部 准教授）

【AL型授業の実施状況，実施体制および授業スキルに関する調査（以下「教員実態調査」と略記）】

- ・実施期間：2023年2月
- ・実施対象：大学コンソーシアム大阪加盟大学に所属する教員
- ・実施形式；GoogleFormsをもちいたWeb調査形式（大学所属教員に対して回答ページURLを伝える形で実施した）
- ・回答数：期間内に受信した回答数260，うち有効回答数256

---

<sup>1</sup> 所属先は本調査研究プロジェクト開始時点のものである。

【学生たちのチームビルディング力とファシリテーション力を養成するための研修会，参加者調査（以下，「学生研修会時調査」と略記）】

- ・実施期間：2022年11月
- ・実施対象：研修会の参加者
- ・実施形式：GoogleForms をもちいた Web 形式（参加者に対して回答ページ URL を伝える形で実施した）
- ・回答数：有効回答数 19

【アクティブ・ブック・ダイアログ®を実践的に学ぶ研修会（以下，「ABD 研修会時調査」と略記）】

- ・実施期間：2022年12月
- ・実施対象：研修会の参加者
- ・実施形式：GoogleForms をもちいた Web 形式（参加者に対して回答ページ URL を伝える形で実施した）
- ・回答数：有効回答数 13

【ファシリテーションの構造理解を目指した研修会（以下，「ファシリテーション研修会時調査」と略記）】

- ・実施期間：2023年1月
- ・実施対象：研修会の参加者
- ・実施形式：GoogleForms をもちいた Web 形式（参加者に対して回答ページ URL を伝える形で実施した）
- ・回答数：有効回答数 16

【主体的・対話的・深い学びの実践事例報告とそれに伴う省察，報告をふまえたワークショップを行う研修会（以下，「事例報告・WS 研修会時調査」と略記）】

- ・実施期間：2023年1月
- ・実施対象：研修会の参加者
- ・実施形式：GoogleForms をもちいた Web 形式（参加者に対して回答ページ URL を伝える形で実施した）
- ・回答数：有効回答数 11

以下では，本研究プロジェクトの成果として各調査の集計結果を示すとともに，結果に関

連して指摘できる内容を述べていく。

## 2 教員の授業実施実態の把握：教員実態調査の集計（N=256）

まず、前提となる現在の教員たちの授業実施についての実態を把握していこう。上述の教員実態調査の結果集計を通して、この点を確認していく。

### 2.1 回答者の属性等

まず、回答者の属性などについて確認しておく。回答者の性別、年齢、職階、所属機関の学生数、専門分野についての集計結果を示したものが、次に示す図 2.1～図 2.4、および表 2.1 である。

図 2.1 回答者の性別

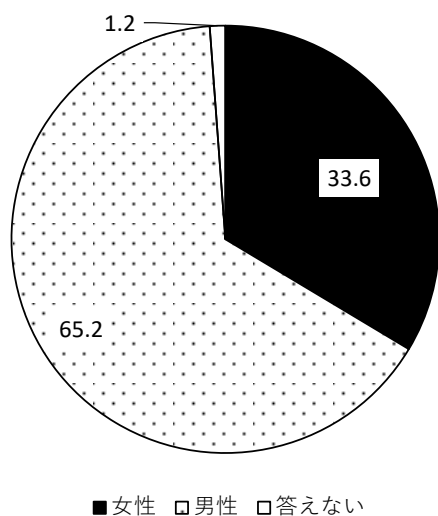


図 2.2 回答者の年齢

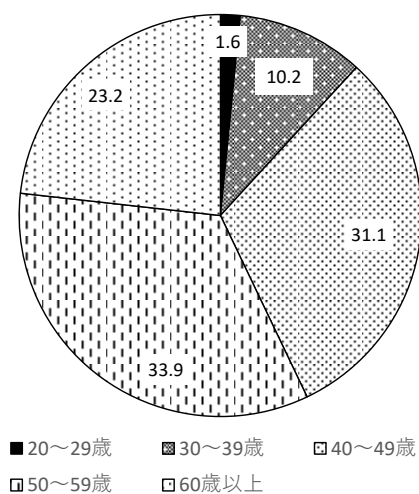


図 2.3 回答者の職階

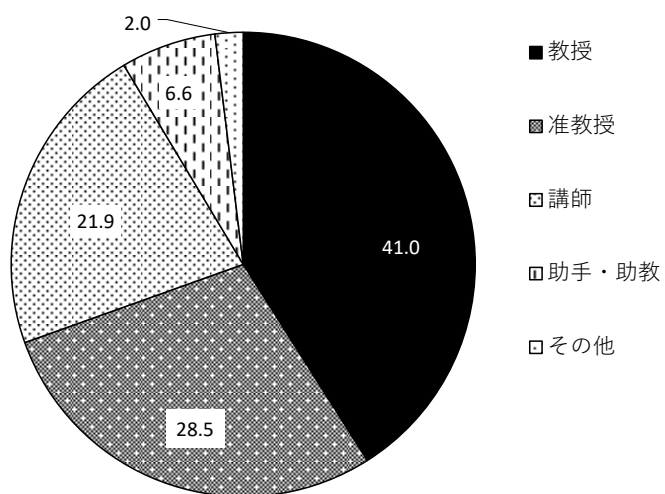


図 2.4 回答者の所属する機関の学生数

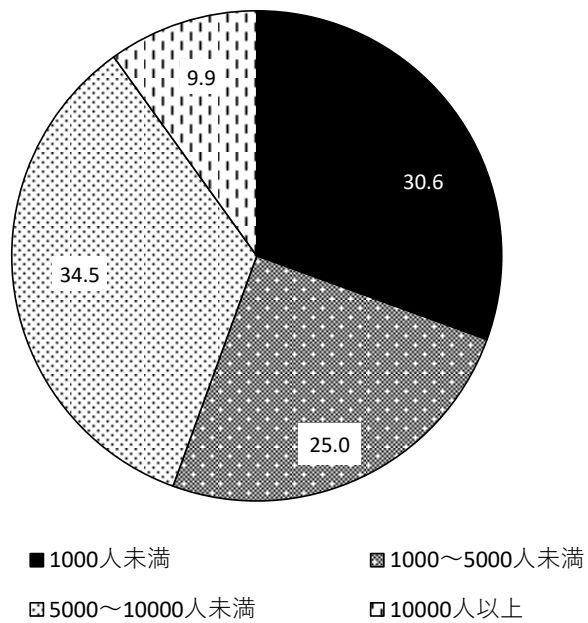


表 2.1 回答者の専門分野

人文学	19	7.5	7.5	生物学	11	4.3	65.9
社会科学	46	18.0	25.5	総合人文社会	6	2.4	68.2
情報学	4	1.6	27.1	総合生物	1	0.4	68.6
医歯薬学	46	18.0	45.1	総合理工	1	0.4	69.0
化学	5	2.0	47.1	農学	29	11.4	80.4
環境学	1	0.4	47.5	複合領域	16	6.3	86.7
工学	26	10.2	57.6	その他	34	13.3	100.0
数物系科学	10	3.9	61.6	総計	255	100.0	

結果のうち、年齢については50代以上が半数を占めること(図 2.1)、職階については「教授」が最もボリュームの大きい層になっている(図 2.3)、といった点は押さえておきたい。新しい学びのスタイルの重要性が主張されるようになったのは最近のことである。このため、一般的に見れば教員としての経歴が短いほど(つまり教員としての立場に立ったのが最近であるほど)こうした新しい学びのスタイルを取り入れる割合は高いと思われる。逆に言えば、教員としての経歴が長いほど新しい学びのスタイルではない、従来型の学びのスタイルに慣れていることが多くなると考えられる。職階についても同様の傾向が考えられ、一般的に見れば職階が高いほど従来型の学びのスタイルに馴染んでいる可能性が考えられる。

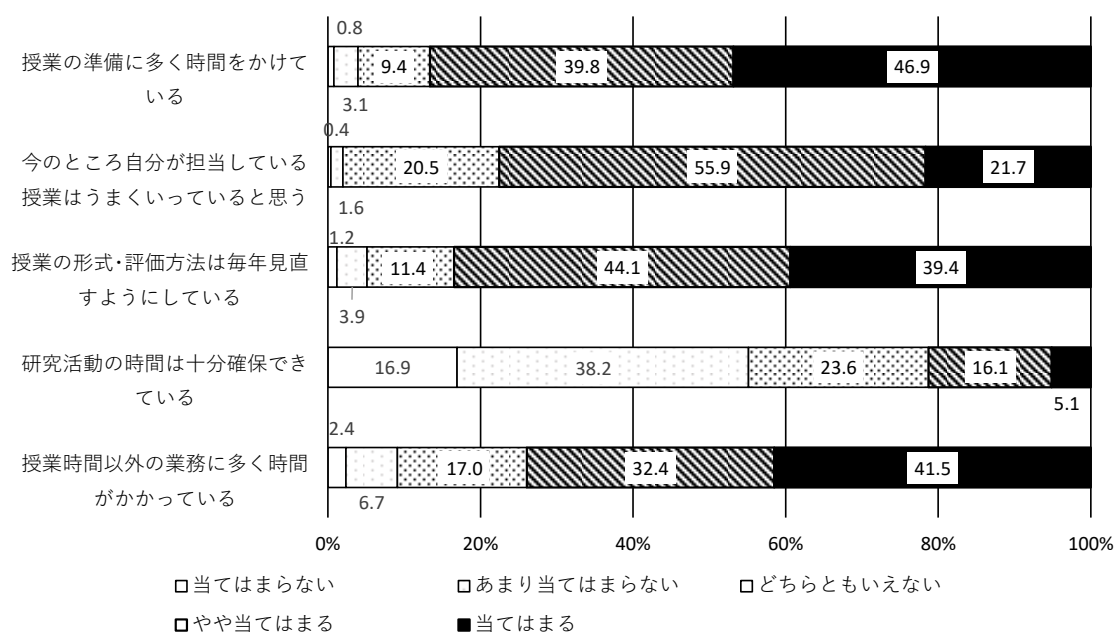
今回の調査データにおける、こうした年齢構成、職階の構成が回答に関係してくる可能性があるため、その点は留意しておきたい。

## 2.2 普段の授業への取り組み姿勢

では、本題である授業関係の実態についてみていこう。まず回答者が普段の授業に対してどのように取り組んでいるのか、についての実態を見てみる。

調査では、「授業の準備に時間を多くかけている」「今のところ、自分が担当する授業はうまくいっていると思う」「授業の形式・評価方法は毎年見直すようにしている」「研究活動の時間は十分に確保できている」「授業以外の業務に時間が多くかかっている」といった点について、当てはまるかどうか5段階で訊ねている。これらの回答をまとめたものが、次の図 2.5 である。

図 2.5 普段の授業への取り組み姿勢



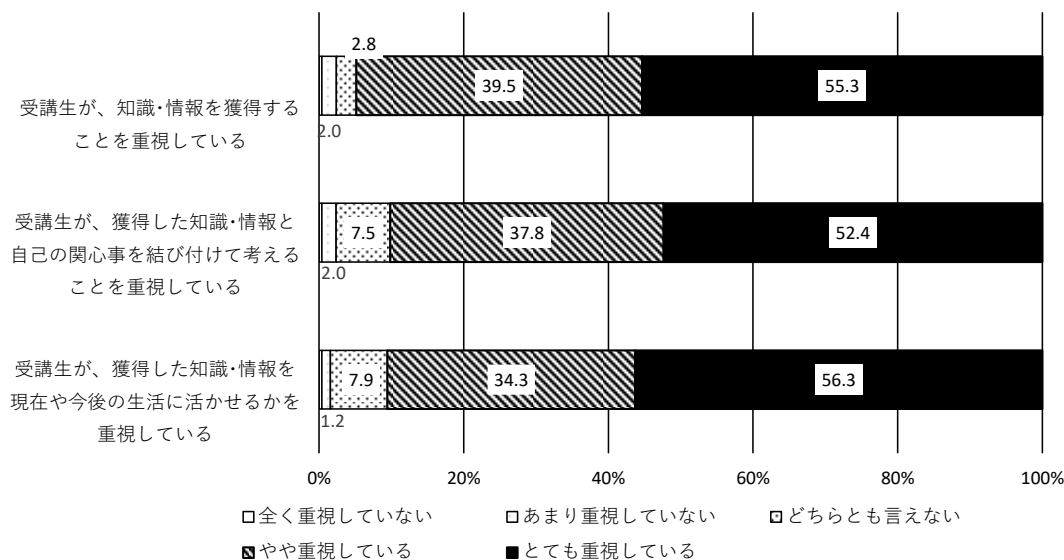
授業準備に時間をかけているかどうかについては、半数程度が「当てはまる」と回答しており、「やや当てはまる」まで合わせると8割を超える。実際にかけている時間はまちまちであろうが、少なくとも回答者の大半が準備に力を入れている様子が見て取れる。ただ一方で授業がうまくいっていると思うかどうかについては、「当てはまる」という回答の割合が2割程度であり、「どちらともいえない」という回答も2割程度みられる。準備に時間をかけているかどうかの回答と対比させてみると、「時間をかけて準備しているが、うまくいっている実感を持っていない」というパターンが少なからずあるように思われる。これに対応するように、形式や評価方法を見直すことについては4割近くが「当てはまる」と回答しており、「やや当てはまる」も合わせると8割を超える。

他方、研究活動の時間が確保できているかどうかについてみれば、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」という回答の合計が半数を超えている。授業時間以外の業務に時間がとられているかどうかの質問についても、「当てはまる」「やや当てはまる」の回答の合計が半数を超えている。これらから、少なくとも今回の回答者の多くが、時間に余裕が持てていない様子が見て取れるだろう。

次に、回答者が自身の担当する授業に対してどのような意向を持っているのか、という点を確認する。調査では回答者自身が授業を行うにあたって、受講生である学生が「知識、情報を獲得する」「授業で獲得した知識・情報と自己の関心事を結びつけて考える」「授業で獲得した知識・情報を、現在や今後の生活に活用する」ことをそれぞれどの程度重視するか、

5段階で訊ねられている。この回答をまとめたものが、次の図 2.6 である。

図 2.6 授業において重視していること



結果としては、3 項目のいずれも「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した割合の合計が 9 割近くになっている。このことから、少なくとも今回の回答者においては、知識・情報の獲得だけでなく、その知識の活用や生活への実践までも視野において授業を行っているようすがうかがえる。

### 2.3 多様な学びのスタイルについての実施程度

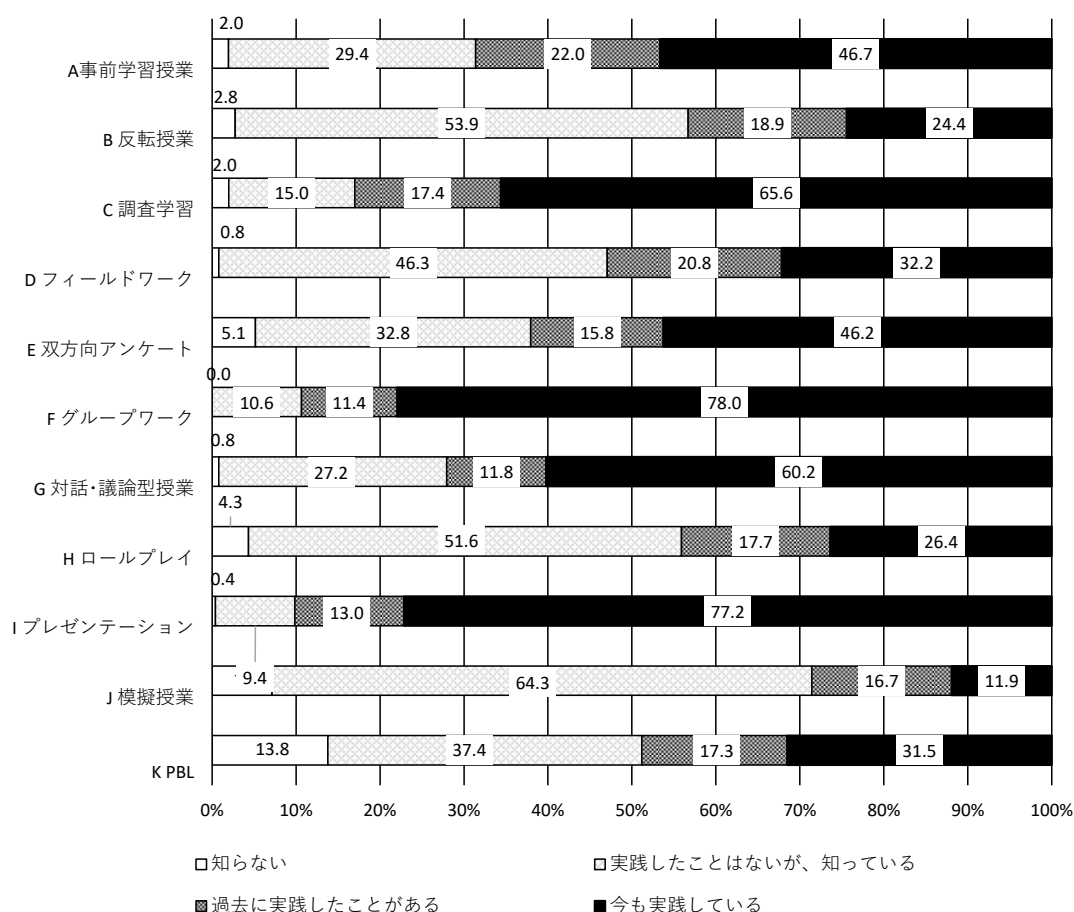
以上から、今回の回答者は時間に余裕がない中であるにもかかわらず、準備に時間をかけて授業に臨み、さらに見直しにも積極的なものが多いこと、知識・情報の提供に加えて実践や活用を重視している、といった積極的な姿勢を示していることが推察される。ではこうした回答者において、多様な学びのスタイルがどれくらい実施されているのだろうか。

調査では、「事前学習型授業」「反転授業」「調査学習」「フィールドワーク」「双方向アンケート」「グループワーク」「対話・議論型授業」「ロールプレイ」「プレゼンテーション」「模擬授業」「PBL」といった形式について、自身の取り組みのようすが訊ねられている。回答は「今も実践している」「過去に実践したことがある」「実践したことはないが、知っている」「知らない」の 4 つから 1 つ選ぶ形式であるため、この質問によって多様なスタイルについてのこれまでの経験や形式をそもそも知っているかどうかなどを把握することができる。また、これらは基本的に「アクティブ・ラーニング」と呼ばれる学びのスタイルに含まれる



ものであるため、「アクティブ・ラーニング」が現状どの程度まで実践されているのか、を把握することができるものである。

図 2.7 多様な学びのスタイルについての実施程度



上記項目についての回答をまとめたものが、図 2.7 である。結果を全体的に眺めてみると、まず「知らない」という割合はどの項目においても少ない、という点が目立っている。「PBL」について「知らない」という回答が最も多くなっているが、それでも割合は13%程度であり、そのほかの項目について「知らない」という割合は1割に満たない。このことから、少なくとも今回の回答者においては、多様な学びのスタイルはかなり知られたものになっているという様子が推察される。

ただし、実践程度にはばらつきがあるというのも事実のようである。例えば「調査学習」や「グループワーク」、「プレゼンテーション」などについては、「今も実践している」という割合が7割前後、「過去に実践したことがある」も含めると8割～9割にもものぼる。こう

した手法は多くの回答者において実践されているといえそうである（「事前・事後学習」「対話・議論型授業」も、割合はやや減るがおおむね同様の傾向にあるといえる）。だが、「反転授業」「ロールプレイ」「模擬授業」などについては、実践した経験のあるもの（「今も実践している」と「過去に実践したことがある」の合計）は半数以下であり、「実践したことはないが、知っている」という割合が多い、という特徴があるといえる。「過去に実践した経験がある」という割合も多くない点を考慮するならば、こうした手法については、「知らないわけではないが、実際自分の授業でどのように取り入れたらいいかわからない」という回答者も少なくないのではないか、と推察される<sup>2</sup>。

## 2.4 ALに対する姿勢・評価

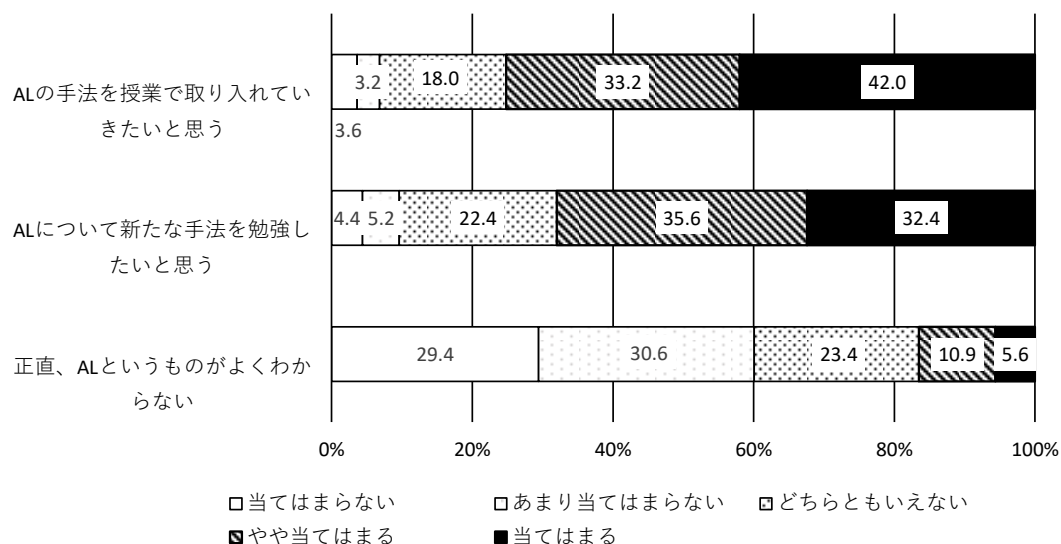
いわゆる「アクティブ・ラーニング」については、一定程度の認知がなされている一方で、それを取り入れることに拒否反応が示される場合も少なくないと思われる。こうした状況を把握すべく、調査では、アクティブ・ラーニングに回答者の率直な意向を訊ねる項目も設けられている。具体的には、「アクティブ・ラーニングの手法を、授業で取り入れていきたいと思う」「アクティブ・ラーニングについて、新たな手法を勉強したいと思う」「正直、アクティブ・ラーニングというものがよく分からない」について、当てはまるかどうかを5段階で訊ねられている。この結果についてまとめたものが、図 2.8 である。

図から、回答者のうち6割～7割の人びとが、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れていきたい、勉強したいという積極的な意向を示していることが分かる。ただ一方で、「正直、アクティブ・ラーニングというものがよく分からない」という質問に対して「当てはまる」～「どちらともいえない」と回答するものの割合が4割程度である点も注意が必要である。というのも、この結果は「アクティブ・ラーニングとはこういうものだ」と明確に認識できているとは言えないものがやはり一定数いることを示しているからである。

---

<sup>2</sup> 「過去に実践したことがある」という回答が多く、「今も実践している」という回答割合が少ない場合、「一度やってみたが、うまくいかなかったのでやめた」というパターンが多いと推察できる。また「過去に実践したことがある」という回答が少なく、「今も実践している」という回答が多い場合は「一度やってみたらうまくいったので、今も続けている」というパターンが多いとみなせる。ここではそのどちらでもないため、このように考えるのが妥当であろうと判断された。

図 2.8 アクティブ・ラーニング（AL）に対する姿勢



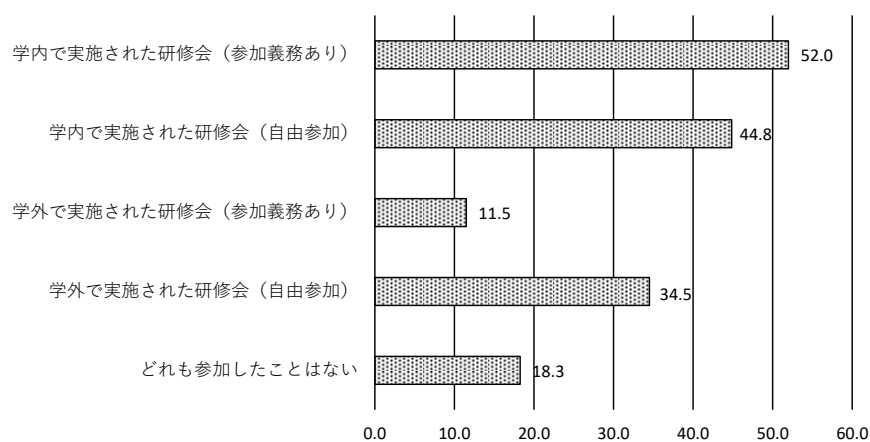
## 2.5 研修会への参加経験と実践した経験

(アクティブ・ラーニングに代表される) 新たな学びの手法については、自身でそのやり方を学び実践する場合もあるだろうが、やはり種々開催されている研修会が新たな手法を身につける場として有効になっていると考えられる。この点をふまえ、調査では回答者がこれまでアクティブ・ラーニングに関する研修会に参加した経験があるかどうかについて訊ねる項目が設けられている。そこでは、学内で実施された研修会（参加義務を伴うもの、伴わないもの）と学外で実施された研修会（参加義務を伴うもの、伴わないもの）それぞれについて、参加経験の有無が訊かれている。その結果をまとめたものが、図 2.9 である。

図から、今回の回答者の中でも、研修会への参加経験は参加義務を伴うものであっても 5割程度、自主参加の研修会ではそれ以下の参加経験しかないことが読み取れる<sup>3</sup>。

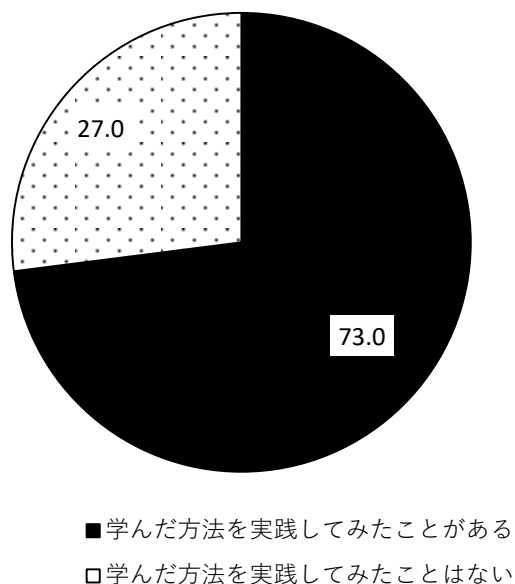
<sup>3</sup> 「学外で実施された研修会（参加義務を伴うもの）」については、そもそもそのような設定の研修会が実施されている場合が少ないため、回答割合も低いのではないかと推察される。それゆえこの回答割合については、一定の留意が必要だと思われる。

図 2.9 種々の研修会への参加経験



またこの質問に関連して、調査では何らかの研修会に参加したことがある回答者には、そこで得た知識を自身の授業で実践してみた経験があるかどうかを併せて訊ねている。その結果が、次の図 2.10 である。

図 2.10 学んだ内容の実践経験



研修会で学んだ方法を実践した経験のあるものは 7 割程度となっている。図 2.9 でみたように、そもそも研修会に参加した経験のあるものは多くて 5 割程度であったことを考慮

するならば、「研修会で学んだ手法を、自分自身の授業で実際に取り入れてみる」というパターンは決して多くないのではないかと推察される。

## 2.6 教員実態調査から考えられる点

教員実態調査の結果からは、次のような特徴のあることが見えてくる。

- 1) 回答者は基本的に、授業に対しても積極的な姿勢を持っている
- 2) 時間の余裕はあまりない
- 3) 様々な手法について、ある程度は実践されているようだが、内容によっては「知っているが、どう組み込めばいいかわからない」パターンも少なくない
- 4) アクティブ・ラーニングに積極的なものは多いが、他方でアクティブ・ラーニングをよく理解できていないものも一定数いる
- 5) 研修会への参加経験は多くなく、そこで得た知識を自分の授業に取り入れるパターンも多くない

この結果をふまえるならば、新たな学びの手法について教員が触れる機会を設けることはやはり重要である、と判断される。ただし、これまで行われてきた研修会のような形式では、それが十分に役割を果たしえるかどうか不明な点が多いというのも事実のようである。したがって、本研究プロジェクトにおいても、その点を考慮して研修会のありようを探っていくことが目標の1つになるといえる。

## 3 「主体的・対話的・深い学び」を目指した研修会の効果：参加者を対象とした調査から

次に、本プロジェクトで企画した研修会への参加者を対象に実施された調査の結果を見ていく。先に確認された教員の実態をふまえ、「主体的・対話的・深い学び」をより広めていくための研修会のあり方を探ることが、ここでのねらいになる。

### 3.1 研修会参加者を対象とした調査 1：学生研修会時調査の集計 (N=19)

#### (1) 研修会の内容・ねらい

研修会の1つとして、ピアサポーターなどとして学生の学びを支援する学生たちを対象として、チームビルディング力とファシリテーション力を養成するための研修会を実施した。よりよいAL型授業のためには、学修者に近い立場で学びを支援する学生サポーターのスキルアップが不可欠と考えられたためである。

研修会の実施にあたっては、チームビルディングとファシリテーション力を高めるための体験的な研修を業者（株式会社ラーニングバリュー）に委託した。大学コンソーシアム大阪 HP に本研修会案内を掲載していただくと共に tulip メールに掲載し参加者募集を行ったところ全国各地から応募があり、最終的に 20 名の学生が研修会に参加した。

研修会は 9 時から開始し、昼食をはさんで 16 時まで行われた。参加者はいずれも熱心に取り組んでおり、最終的には参加者どうしで質の高い成果物を作り上げていた。

## (2) 参加者調査の結果

### 1) 参加者の属性等

まず、この時の研修会参加者の属性についてまとめておく。参加者の性別と年齢の結果をまとめたものが、次の図である。

図 3.1 参加者の性別

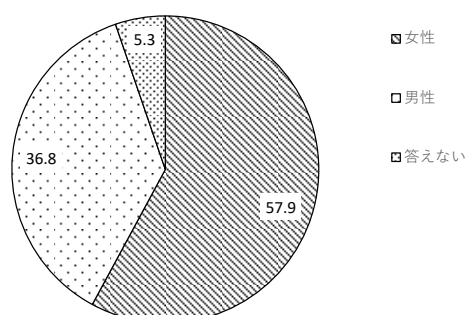
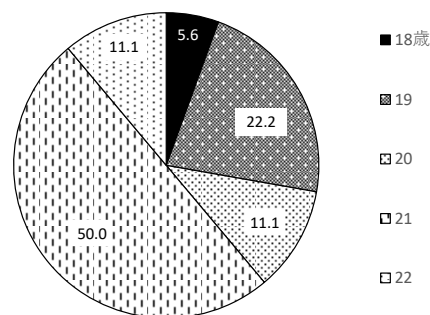


図 3.2 参加者の性別

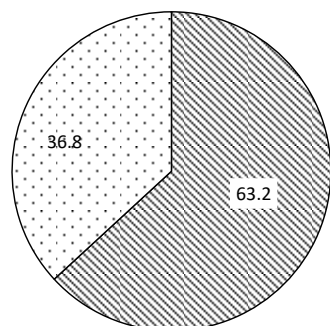


こうした参加者において、研修会がどのようなものであったか。次以降で結果をまとめていこう。

### 2) 研修会の評価

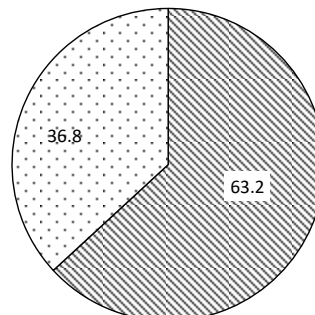
研修会時に行った調査では、研修会の内容についての理解度や満足度が訊ねられている。次の図は、その結果をまとめたものである。

図 3.3 研修会が理解しやすかったか



■とても理解しやすかった □理解しやすかった

図 3.4 研修会に満足できたか



■とても満足できた □満足できた

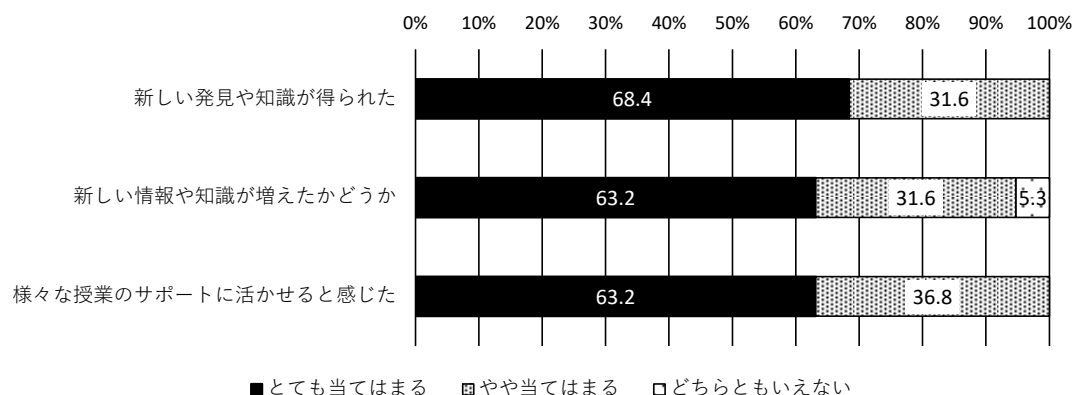
理解度、満足度とも半数以上が「とても理解しやすかった」と回答している。それ以外の参加者も「理解しやすかった」と回答しており、理解に関して否定的な回答は見られていない。満足度についても同様の結果であり、研修会に対して不満を持つ参加者は見られなかった。このことから、学生を対象とした研修会で実施された内容について、少なくとも理解はされており、参加したことで満足が得られるものになっていたと判断される。

### 3) 効果についての判断

上記の通り参加者が理解し満足していたとしても、その内容が本人にとって役立つものになりえていなければ、研修会の役目として十分なものとは言えない。そのため、研修会の内容がどのように役立つと参加者に感じられたかどうかについても確認しておく必要がある。

調査では、理解度や満足度とは別に、研修会で学んだことについての評価を訊ねる質問が設けられている。具体的には、「新しい発見や気づきが得られた」「新しい知識や情報が増えた」「様々な授業でのサポートに活かせると感じた」について、当てはまるかどうかを5段階で訊ねられている。図 3.5 は、その結果をまとめたものである。

図 3.5 研修会に対する評価



結果を見る限り，参加者の大半が肯定的な回答を示していることが分かる。学生対象の研修会については，参加したすべての学生が知識を獲得するとともに，今後自分自身が他の学生に対して行うサポートについても活用できるという実感が得られているようであった。

この研修会は，普段は教えられる立場であることの多い学生を対象としたものである。では，同じくファシリテーション力向上を目指して提供される研修会が，普段から教える立場となっている教員に対して行われた場合どのような結果になるだろうか。ここでの結果と，次以降の調査結果を比較しつつ，この点も確認していきたい。

### 3.2 研修会参加者を対象とした調査 2：ABD 研修会時調査の集計 (N=13)

#### (1) 研修会の内容・ねらい

この研修会では，さまざまな AL 手法のなかでもさまざまな学問領域，授業内容への応用可能性が高いと考えられるアクティブ・ブック・ダイアログ®を取り上げた。具体的には，ABD 公認ファシリテーターである摂南大学の犬塚正人教授を講師としてアクティブ・ブック・ダイアログ®の体験いただき，実践的に学ぶ機会とした。

大学コンソーシアム大阪 HP に本研修会案内を掲載していただくと共に tulip メールに掲載し参加者募集を行ったところ全国各地から応募があり，最終的には 12 名にご参加いただいた。研修会は 9 時から開始し，昼食をはさんで 16 時まで行われた。参加者はいずれも熱心に取り組んでおり，最終的には参加者どうしで質の高い成果物を作り上げていた。



## (2) 参加者調査の結果

### 1) 参加者の属性等

先ほどと同様、まずは参加者の属性についてまとめておこう。次の図 3.6～図 3.9 は、参加者の性別と年齢、職階と専門分野についての回答をまとめたものである。

図 3.6 参加者の性別

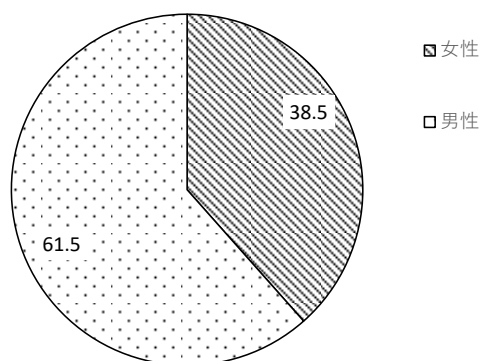


図 3.7 参加者の年齢

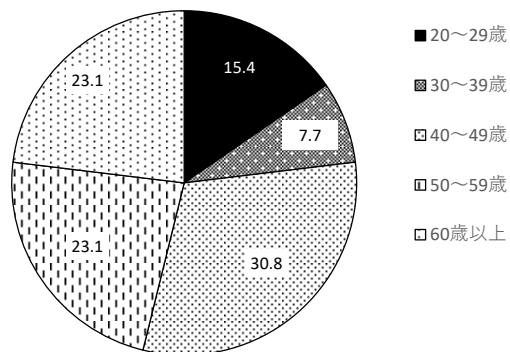


図 3.8 参加者の職階

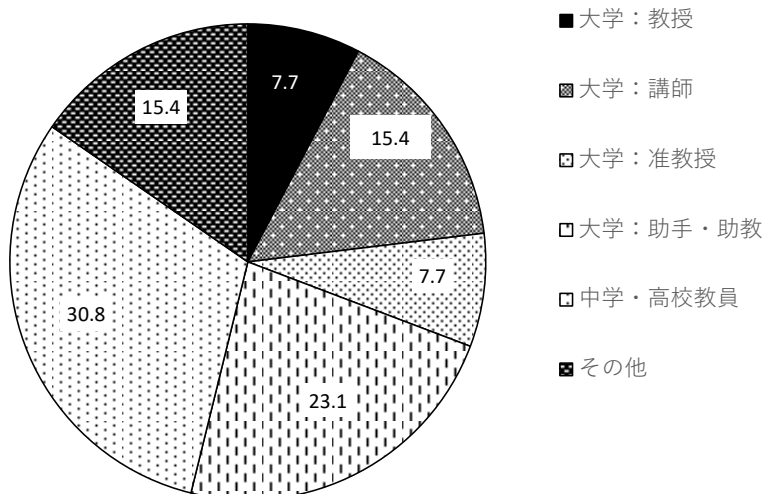
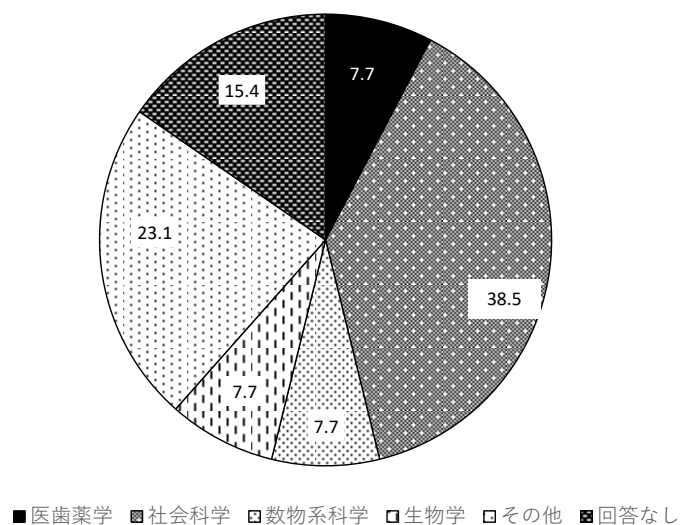


図 3.9 参加者の専門分野



こうした参加者において、研修会がどのようなものであったか。次以降で結果をまとめていこう。

## 2) 研修会の評価

学生対象の研修会の場合と同様、この回においても研修会の内容についての理解度や満足度が訊ねられている。次の図は、その結果をまとめたものである。

図 3.10 研修会が理解しやすかったか

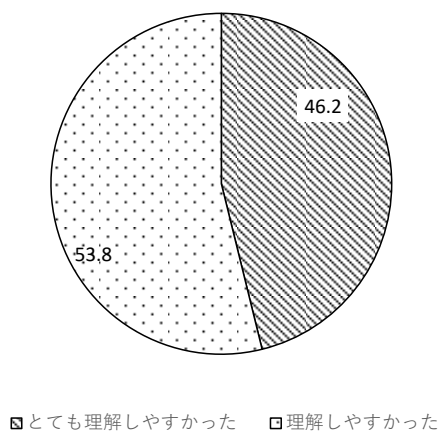
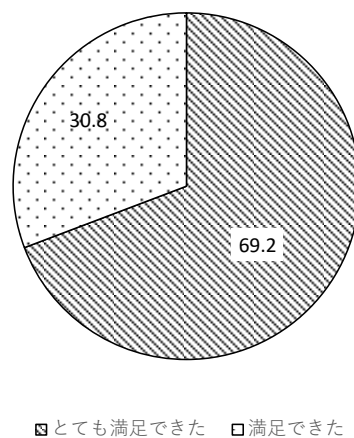


図 3.11 研修会に満足できたか

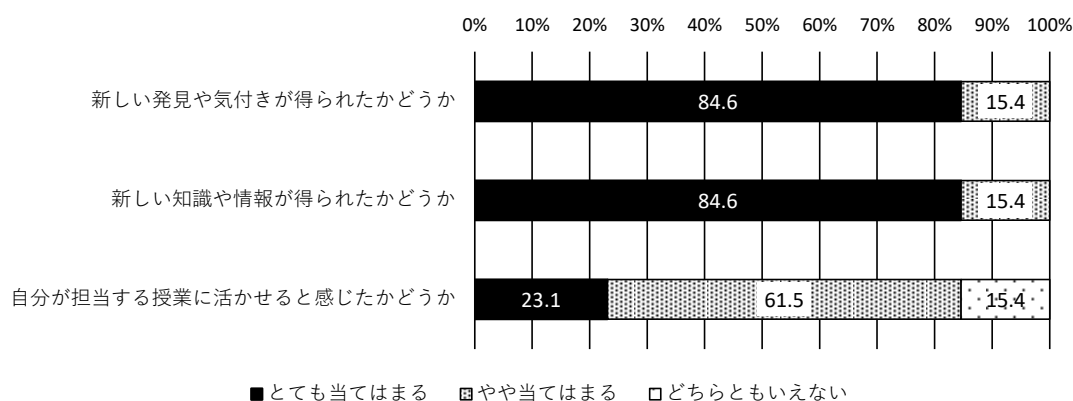


結果を見る限り、学生対象の研修会の場合と傾向は同じであり、参加者の多くが内容について「とても理解しやすかった」、「とても満足できた」と回答しているようである。残りのものも「理解しやすかった」「満足できた」と回答しており、否定的な回答を示す参加者はいないようである。

### 3) 効果についての判断

では、そうした研修会で学んだ内容について、参加者はどのように評価しているか。この回も、学生研修会の時と同様に提供された内容についての評価について訊ねられているので、その結果を確認しておく。

図 3.12 研修会に対する評価



結果をまとめたものが、図 3.12 である。図のうち、発見・気づきと知識・情報については大半の参加者が「とても当てはまる」と回答しており、残る回答者も「やや当てはまる」としている。このことから、研修会において参加者は新たな気づきを得たり、知識が得られたりした感覚を明確に持てているようである。

ただ、その一方で「自分が担当する授業に活かせると感じたかどうか」についていえば、「とても当てはまる」の割合が明らかに少なくなっている。「やや当てはまる」という回答が多いため、否定的な回答が多いわけでもないが、「どちらともいえない」それ以外の2項目に比べて明らかに割合が低い点は見逃ごせない。やや強引かもしれないが、この様子からは研修会参加者が「新たな手法については理解するものの、他方でそれを自身が実際に授業で行える、という実感を持てるところまでは、研修会時点では至れていない」のではないかと推察される。

### 3.3 研修会参加者を対象とした調査 3：ファシリテーション研修会時調査の集計（N=16）

#### (1) 研修会の内容・ねらい

この研修会では、あらためて AL とはなにか、AL 型授業を行ううえで重要なキーワードとなる「ファシリテーション」をどのように行うかを、講義と実践事例紹介、省察および対話を通じて参加者自身が考え、自らの実践に活かすことを目指した研修会を実施した。

具体的には、業者（株式会社ラーニングバリュー）に委託し、ファシリテーションの構造理解に関する業者（株式会社ラーニングバリュー）による講義と参加者間での対話により、AL 型授業およびファシリテーションについての理解を深め、その共有を図った目指した研修会を行った。参加人数は 26 名であった。

なお、この研修会は後の事例報告・WS 研修会と合わせて 2 日続けて実施されたものである。ただし、研修会参加者に対する調査は 1 日目（ファシリテーション研修会）終了時点、2 日目（事例報告・WS 研修会）終了時点の 2 回行われている。それゆえ集計結果も調査ごとに示すため、ここではファシリテーション研修会時調査の結果のみ示すことにする。

#### (2) 参加者調査の結果

##### 1) 参加者の属性等

先ほどと同様、まずは参加者の属性についてまとめておこう。次に示す図 3.13～図 3.16 は、参加者の性別、年齢、職階、専門分野の結果をまとめたものである。

図 3.13 参加者の性別

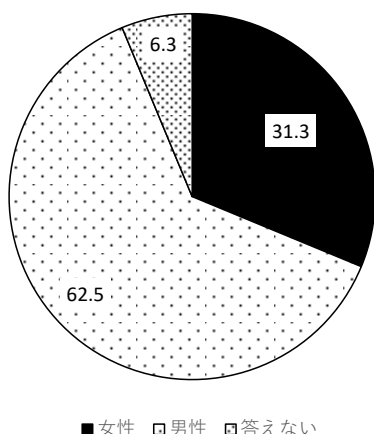


図 3.14 参加者の年齢

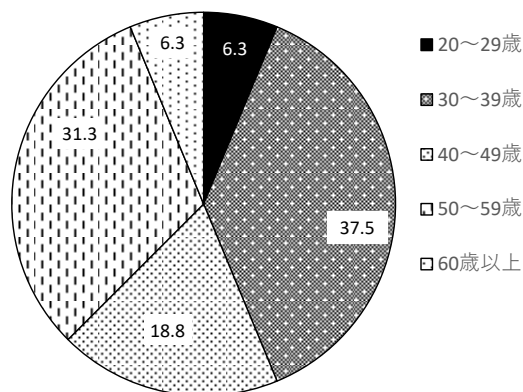


図 3.15 参加者の職階

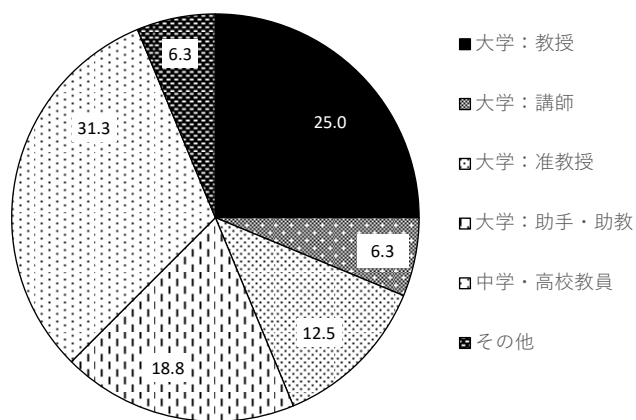
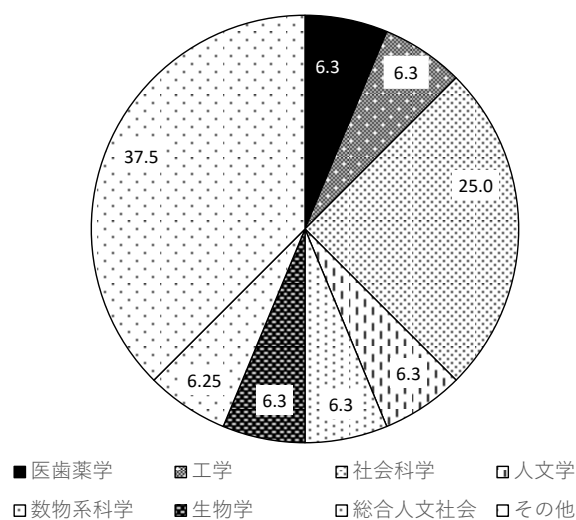


図 3.16 参加者の専門分野

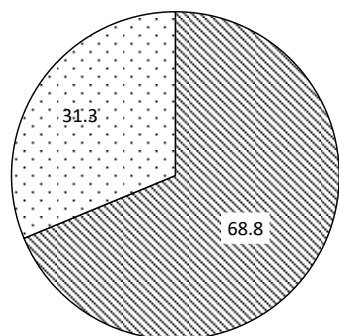


では、こうした参加者が研修会に対してどのような評価をしているか。以下で確認していこう。

## 2) 研修会の評価

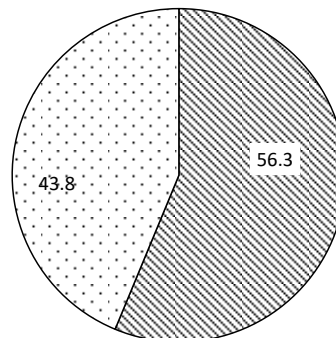
この回の研修会においても、それまでと同じ調査項目を用いて調査がなされている。理解度や満足度についても訊ねられているため、その結果を確認しよう。下の図は、理解度、満足度の結果についてまとめたものである。

図 3.17 研修会が理解しやすかったか



■とても理解しやすかった □理解しやすかった

図 3.18 研修会に満足できたか



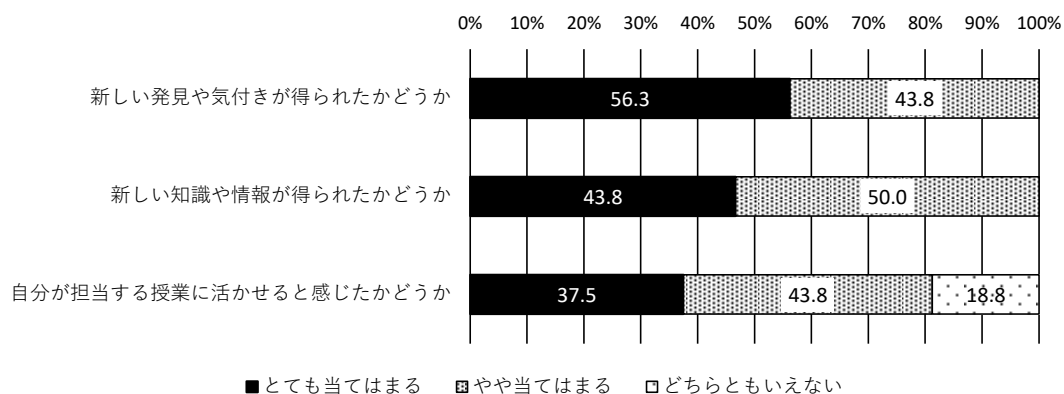
■とても満足できた □満足できた

図から、「とても理解しやすかった」「とても満足できた」という回答が半数以上を占めていることが分かる。結果を見る限り、この回の参加者においても、理解度、満足度は高い傾向があるといえそうである。

### 3) 効果についての判断

では、研修会で学んだことに対する評価はどのようになっているか。次の図 3.19 は、それに関連する質問の回答分布を示したものである。

図 3.19 研修会に対する評価



■とても当てはまる □やや当てはまる □どちらともいえない

図を見る限り、基本的に参加者が研修会での内容を肯定的にとらえていることは間違いないとみられる。ただし詳しく見てみると、先に紹介した ABD 研修会時調査と似たような

傾向のある可能性も見て取れる。具体的には、発見や気づきに関して「とても当てはまる」という回答が半数以上を占めているが、「新しい情報が得られたかどうか」「自分が担当する授業に活かせると感じたかどうか」については、「とても当てはまる」という回答の割合が順に減っている。特に「活かせる…」については「どちらともいえない」という回答が一定程度見られている。このことから、3.2 の研修会の場合と同様、提供された内容の新しさに触れ、気づきを得る一方で、自身の授業に活かすことについてはまだためらいがあるのではないか、という点が推察される。

### 3.4 研修会参加者を対象とした調査 4：事例報告・WS 研修会時調査の集計（N=11）

#### (1) 研修会の内容・ねらい

この研修会は、上述のファシリテーション研修会と同様にあらためて AL とはなにか、AL 型授業を行ううえで重要なキーワードとなる「ファシリテーション」をどのように行うかを、講義と実践事例紹介、省察および対話を通じて参加者自身が考え、自らの実践に活かすことを目指して実施されたものである。

この回の研修会では、AL 型事業授業を実施している教員からの事例報告と報告に関する参加者との対話を行った後、グループに分かれ、まずは参加者自身の授業実施の状況を省察し、それをグループ内で共有、対話を行いしながら学びを深める形で研修を行った。参加人数は 23 名であった。

この研修会終了後にも参加者を対象として調査が実施された。ここでは、この事例報告・WS 研修会時調査の結果のみ示す。

#### (2) 参加者調査の結果

##### 1) 参加者の属性等

まずは参加者の属性についてまとめておく。次に示す図 3.20～図 3.23 は、参加者の性別、年齢、職階、専門分野の結果をまとめたものである。

図 3.20 参加者の性別

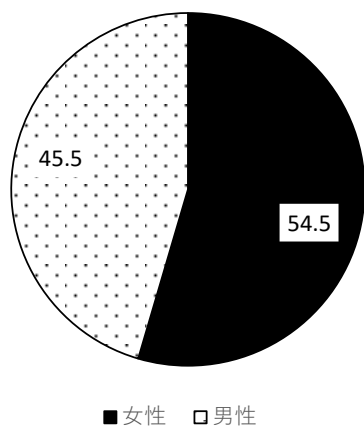


図 3.21 参加者の年齢

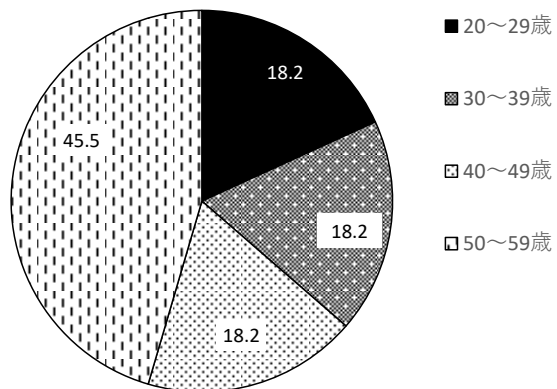


図 3.22 参加者の職階

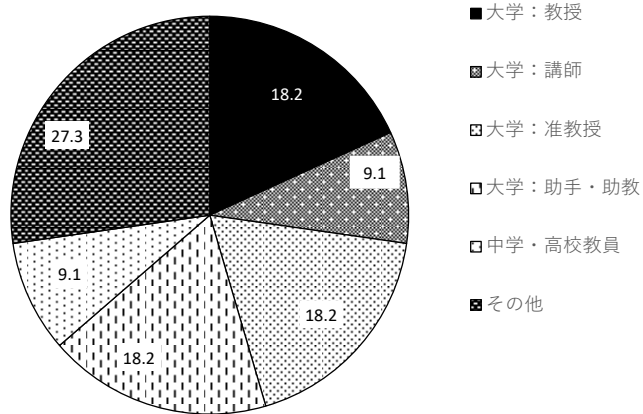
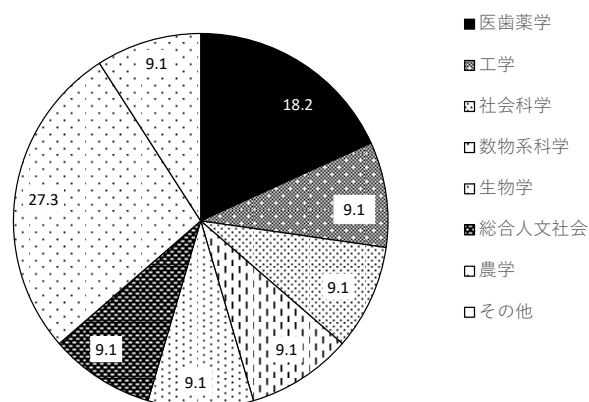




図 3.23 参加者の専門分野

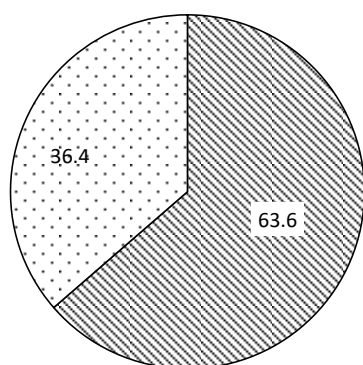


では、こうした参加者が研修会に対してどのような評価をしているか。以下で確認していこう。

## 2) 研修会の評価

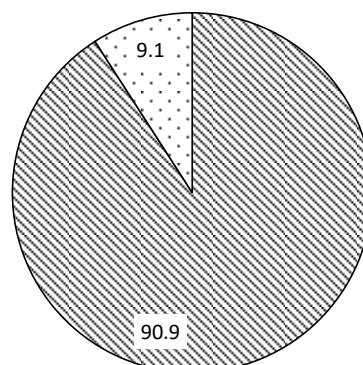
この回の研修会においても、これまでと同じ調査項目を用いて調査がなされている。理解度や満足度についても訊ねられているため、その結果を確認しよう。下の図は、理解度、満足度の結果についてまとめたものである。

図 3.24 研修会が理解しやすかったか



■ とても理解しやすかった □ 理解しやすかった

図 3.25 研修会に満足できたか



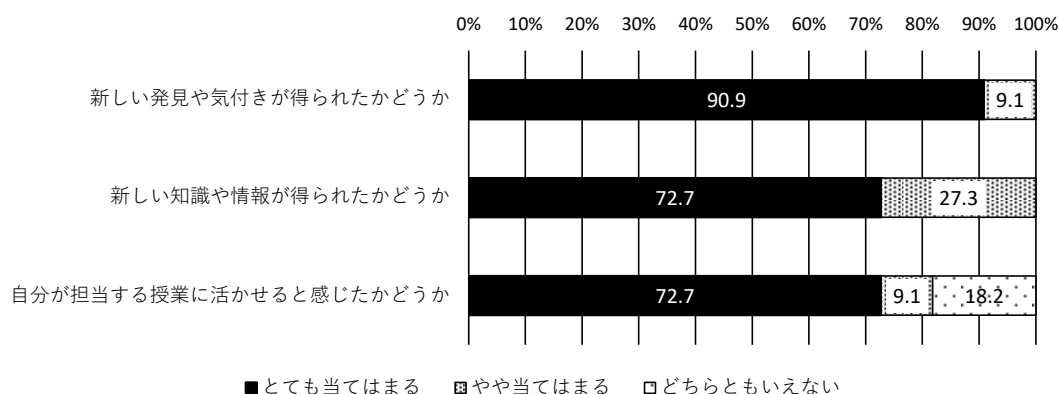
■ とても満足できた □ 満足できた

図から、これまでの研修会と同様、理解度や満足度に対してはすべての参加者が肯定的回答を示している様子が分かる。ただ、満足度については「とても満足できた」という回答が、先に紹介した3つの調査の場合よりも明らかに多い点が指摘できる。先の3調査よりもさらに回答数が少ない、という点では留保が必要であるものの、この結果は注目に値するといえる。

### 3) 効果についての判断

次に、参加者が研修会で学んだことに対する評価はどのようなものであるか。図 3.26 は、それに関連する質問の回答分布を示したものである。

図 3.26 研修会に対する評価



図からはまず、この回の参加者においても肯定的回答が大半を占めている様子が分かる。このことから少なくとも、今回行われた4回の研修会に関してはすべて参加者に肯定的にとらえてもらえる内容が提供されていたと判断できる。

ただし結果を詳しく見てみると、これまでの3回の研修会時とはまた異なった結果になっていることもわかる。というのは、この回の研修会に対しては、肯定的な回答の中でも「とても当てはまる」という回答の割合が他の回に比べ明らかに多い、という点が目立っている。「どちらともいえない」という回答も一定程度みられているが、「自分が担当する授業に活かせると感じたかどうか」に関しても、この回では割合が7割程度と明らかに高い。この結果を見る限り、4回の研修会のうちこの「事例報告・WS研修会」は参加者が研修会において最もその効果を実感できるものになっていると判断される。

### 3.5 研修会時に実施した4調査から見てくる可能性

研修会時に実施した調査はいずれも回答数に限界があるため、その結果については一定程度の留保が必要ではある。だが、あえて今回の調査から想起される可能性を述べるとすれば以下のような点が指摘できる。

#### (1) 4回の研修会の結果を比較して

先にも述べた通り、本プロジェクトにおいて実施された4回の研修会の中では、「事例報告・WS研修会」が最も参加者が効果を実感できるものになっていると判断される。この回の特徴として考えられる点としては、他回と扱っている内容が異なることを除けば「参加者どうしで、事例に関する省察の共有」の機会を設けていること、「2日連続の研修会の2日目であること」などがあげられるだろう。あくまで現時点の仮説ではあるが、このような特徴が研修会での効果の実感に関係している可能性を考えることもできるのではないだろうか。

#### (2) 研修会の役割と限界

上記の仮説が仮に正しいとして、今回行われた他の研修会の結果を合わせて考えてみるならば、研修会の果たす役割とその限界について次のような点を指摘することができる。

今回実施した研修会のうちABD研修会やファシリテーション研修会に関しては、手法についての解説とその実践が主たる内容であった。つまり「新たな手法について紹介する・体感する」という点で共通したものだったといえる。それらの研修会については、参加者が新たな手法や、そうした手法を用いた授業のありようについて新たな知識、知見を得ることはできていた（知識・情報や、気づきに関する「とても当てはまる」の割合の高さ）。つまり、このような「新たな手法について紹介する・体感する」という趣旨の研修会は一般的にも多く行われていると思われるが、そうした研修会においては、紹介される手法の意味や意義、スキルについて伝えることができるのは間違いないだろう。

しかし他方、そうした手法を自分が実際に行うことについてはややためらいがみられるものになっていたといえる（自身の授業に活かせること、に対する「とても当てはまる」の割合が他より低い傾向）。すなわち、（あくまで今回の調査結果に基づく仮説ではあるが）そうした新たな手法を自分の授業に活かすまでに理解する、言い換えるならば「自分のものとして身につける」水準まで引き上げることについては限界がある可能性が指摘できる。

### **(3) 効果を高める手立ての可能性**

では、「自分のものとして身につける」水準まで引き上げる手立てとして何が必要なのか。今回の調査結果からは、参加者がフラットに意見や自身の状況などを表明する場があることが、「自分の授業でも実践してみる」ところまで結びつける1つの手立てではないか、という点が考えられる。なぜなら、「事例報告・WS研修会」では、先に述べた通り事例報告に関連する省察を共有する機会を設けており、そこでのポイントとしては、「参加者がフラットに意見や自身の状況などを表明する場になっていた」という点が特に重要だと思われるためである。

新たな手法を実践しようと考えたときには、実際に懸念される困難な状況、心配事が頭をよぎると思われる。新たな手法を独自に学ぶ場合、そうした困難な状況への対応も自分で対処法を見いださなければならなくなる。こうした場合、時にはうまい方法が見いだせないために、新たな手法を実践してみることをやめてしまう場合もあり得るだろう。だが、そうした時に研修会の場で立場を同じくするものどうしが心配事を共有しあう場所があれば、実践へのハードルは下がることにつながると思われる。同じ悩みを抱えるものどうしが話し合うことで心配事が解決することもあるだろうし、よりよい在り方が見いだされることもあるからである。このような意味で、新たな手法に取り組むことを模索する時にこうした場が重要であることは間違いないと思われる。本プロジェクトで言えば「事例報告・WS研修会」はまさにそのような機能を果たしていたのではないかとみられる。実際、「事例報告」を通して参加者個人がこれまで授業実践で上手くいった、あるいは上手くいかなかった体験を考えながら、それらを参加者間で共有し、改善や良さを伸ばしていく模索のプロセスがみられていた。それゆえ参加者において効果に対する評価も高かったのは、このような点が影響しているのではないかと考えられる。

### **(4) 参加者どうしの関係性：プログラム継続時間について**

仮に研修会において上記のような機能が果たされうるとして、研修会としてはそのように話しができる機会を設けること以外に、「いかにフラットに話しができる場にするか」という点、言い換えるならば参加者相互の関係性を構築するチャンスを担保することだと思われる。この点に関して、本プロジェクトで実施された研修会の結果を手掛かりにするならば、「研修会参加者の相互関係が構築できるよう、研修会の時間を一定程度以上設ける」ことも手立ての1つになると考えられる。

一般的な研修会は（皆の時間的余裕のなさを考慮して）1日で、しかも限られた時間で実施されることが多いと思われる。こうした研修会では、「新たな手法について紹介する・体

感する」場を提供することはできたとしても、上記のような参加者どうしがフラットに意見交換をできるまでの状況を構築し得るかどうにかまでは担保しづらいと思われる。いくら意識の高い参加者どうしだったとしても、短い研修会の時間の中で自身の普段の思いを開示しあう関係性を作り上げることはなかなか難しいと思われるからである。

この点に関して、継続して参加を求める形で研修会を実施することが有効ではないかと考えられる。本プロジェクトで実施した研修会のうち「事例報告・WS 研修会」は、2日間のプログラムのうち2日目に行われたものであり、そこでは1日目に知り合った者どうしが翌日も顔を合わせるようになっていた。その研修会の結果が最も良好なものであったことは上述の通りであるが、この結果がもたらされた要因の1つには、研修会に参加した者どうしの関係性が一定程度構築されていたことがあると考えられる。つまり、「自身の普段の思いを開示しあう関係性」を短い時間で構築するのは難しいが、逆に言えば研修会のプログラムにおいて活動を共有する時間が一定程度以上設けられていれば、話し合いをスムーズに行えるほどの関係性を構築することが可能であることを示唆している、と考えることもできるのではないだろうか。

もちろん、研修会のプログラムとして用意されている時間が長ければ長いほど、参加に懸念を示すものが多くなることは間違いのないため、この手立てがすべてを解決する唯一の方法だとは考えにくい。ただし、これが本プロジェクトにおいて実施した種々の調査結果を踏まえて合理的に考えられうる1つの方法であることは間違いのないといえよう。



## II 資料





## 研修会についてのアンケート

今回の研修に参加されてのご意見やご感想をお聞きます。いくつかの設問に対して率直にお答え下さい。

◆ あなたの性別と年齢について教えてください ◆

【性別】 1. 女性          2. 男性          3. 回答しない

【年齢】          (          ) 歳

I. 本研修会に参加する前についてお尋ねします。研修会に参加するにあたって、どのようなことを学びたいと思われましたか。具体的にお書き下さい。

II. それでは、実際に研修会に参加して考えたことについてお尋ねします。

① 以下の内容について、どの程度当てはまりますか。それぞれについて、最も近い数字1つに○をして下さい。

	当てはまる とても	当てはまる やや	いえない どちらとも	当てはまらない あまり	全く 当てはまらない
A. 新しい発見や気づきを得られた	1	2	3	4	5
B. 新しい知識や情報が増えた	1	2	3	4	5
C. 様々な授業でのサポートに活かせると感じた	1	2	3	4	5

② 本研修会で学んだこと活かしていくために、あなたは今後どのような行動をしていきますか。具体的にお書き下さい。活かすための行動がない場合は、その理由をお書き下さい。

③ あなたは本研修会に参加してみてどの程度理解することができましたか。最も近い数字 1 つに○をして下さい。

1 とても理解しやすかった

2 理解しやすかった

3 どちらともいえない

4 やや理解しにくかった

5 理解しにくかった

④ あなたは本研修会に参加してみてどの程度満足できましたか。最も近い数字 1 つを選んでください。

1 とても満足できた

2 満足できた

3 どちらともいえない

4 あまり満足できなかった

5 満足できなかった

Ⅲ. あなたが今後ファシリテーションを向上させていくとした場合、あなたはどのようなファシリテーション養成研修会に参加したいと思いますか。具体的にお書き下さい。

Ⅳ. 最後に、本研修会に参加してみての感想を自由にお書き下さい。

質問は以上となります。

アンケートの回答にご協力いただきありがとうございました。

## 研修会についてのアンケート

今回の研修に参加されてのご意見やご感想をお聞きます。いくつかの設問に対して率直にお答え下さい。

### ◆ あなたの性別と年齢について教えてください ◆

【性別】 1. 女性      2. 男性      3. 回答しない

【年齢】 (      ) 歳

I. 本研修会に参加する前についてお尋ねします。研修会に参加するにあたって、どのようなことを学びたいと思われましたか。具体的にお書き下さい。

II. それでは、実際に研修会に参加して考えたことについてお尋ねします。

① 以下の内容について、どの程度当てはまりますか。それぞれについて、最も近い数字1つに○をして下さい。

	当てはまる とても	当てはまる やや	いえない どちらとも	当てはまらない あまり	全く 当てはまらない
A. 新しい発見や気づきを得られた	1	2	3	4	5
B. 新しい知識や情報が増えた	1	2	3	4	5
C. 様々な授業でのサポートに活かせると感じた	1	2	3	4	5

② 本研修会で学んだこと活かしていくために、あなたは今後どのような行動をしていきますか。具体的にお書き下さい。活かすための行動がない場合は、その理由をお書き下さい。

③ あなたは本研修会に参加してみてどの程度理解することができましたか。最も近い数字 1 つに○をして下さい。

1 とても理解しやすかった

2 理解しやすかった

3 どちらともいえない

4 やや理解しにくかった

5 理解しにくかった

④ あなたは本研修会に参加してみてどの程度満足できましたか。最も近い数字 1 つに○をして下さい。

1 とても良かった

2 良かった

3 どちらともいえない

4 あまり良くなかった

5 良くなかった

Ⅲ. あなたが今後ファシリテーションを向上させていくとした場合、あなたはどのようなファシリテーション養成研修会に参加したいと思いますか。具体的にお書き下さい。

Ⅳ. 最後に、本研修会に参加してみての感想を自由にお書き下さい。

質問は以上となります。

アンケートの回答にご協力いただきありがとうございました。

## 研修会についてのアンケート

今回の研修に参加されてのご意見やご感想をお聞きます。  
いくつかの設問に対して率直にお答え下さい。

### ◆ あなたの性別と年齢、専門分野について教えてください ◆

【性別】 1. 女性 2. 男性 3. 回答しない

【年齢】 1. 20～29歳 2. 30～39歳 3. 40～49歳 4. 50～59歳 5. 60歳以上

【職階】 1. 助手・助教 2. 講師 3. 准教授 4. 教授 5. その他

【専門分野】 あなたの専門分野は、次のうちどれに当てはまりますか。  
当てはまるもの1つに○をしてください。

- |         |          |           |          |          |
|---------|----------|-----------|----------|----------|
| 1. 情報学  | 2. 環境学   | 3. 総合人文社会 | 4. 人文学   | 5. 社会科学  |
| 6. 総合理工 | 7. 数物系科学 | 8. 化学     | 9. 工学    | 10. 総合生物 |
| 11. 生物学 | 12. 農学   | 13. 医歯薬学  | 14. 複合領域 |          |

I. 本研修会に参加する前についてお尋ねします。研修会に参加するにあたって、どのようなことを学びたいと思われましたか。具体的にお書き下さい。

II. それでは、実際に研修会に参加して考えたことについてお尋ねします。

① 以下の内容について、どの程度当てはまりますか。それぞれについて、最も近い数字1つに○をして下さい。

	当てはまる とても	やや 当てはまる	いえない どちらとも	あまり 当てはまらない	全く 当てはまらない
A. 新しい発見や気づきを得られた	1	2	3	4	5
B. 新しい知識や情報が増えた	1	2	3	4	5
C. 自分が担当する授業に活かせると感じた	1	2	3	4	5

- ② 本研修会で学んだこと活かしていくために、あなたは今後どのような行動をしていきますか。具体的にお書き下さい。活かすための行動がない場合は、その理由をお書き下さい。

- ③ あなたは本研修会に参加してみてどの程度理解することができましたか。最も近い数字 1 つに○をして下さい。

- .....
- 1    とても理解しやすかった
- .....
- 2    理解しやすかった
- .....
- 3    どちらともいえない
- .....
- 4    やや理解しにくかった
- .....
- 5    理解しにくかった
- .....

- ④ あなたは本研修会に参加してみてどの程度満足できましたか。最も近い数字 1 つに○をして下さい。

- .....
- 1    とても良かった
- .....
- 2    良かった
- .....
- 3    どちらともいえない
- .....
- 4    あまり良くなかった
- .....
- 5    良くなかった
- .....

- Ⅲ. 今後、アクティブラーニングの研修会やワークショップが開催されるとした場合、あなたはどのようなアクティブラーニングの研修会やワークショップに参加したいと思いますか。具体的にお書き下さい。

- Ⅳ. 最後に、本研修会に参加してみての感想を自由にお書き下さい。

質問は以上となります。  
アンケートの回答にご協力いただきありがとうございました。

I まず、基礎的なことについておたずねします。

【問 1】あなたの性別と年齢について教えてください。

[性別] 1. 女性 2. 男性 3. 答えない

[年齢] 1. 20～29歳 2. 30～39歳 3. 40～49歳 4. 50～59歳 5. 60歳以上

【問 2】あなたの所属機関での様子についてお伺いします。所属機関の学生数、あなたの専門分野と現在の職階は、次のうちどれに当てはまりますか。それぞれ、当てはまるもの1つに○をしてください。

[所属機関の学生数]

1. 1000人未満 2. 1000～5000人未満 3. 5000～10000人未満 4. 10000人以上

[専門分野]

1. 情報学 2. 環境学 3. 総合人文社会 4. 人文学 5. 社会科学  
 6. 総合理工 7. 数物系科学 8. 化学 9. 工学 10. 総合生物  
 11. 生物学 12. 農学 13. 医歯薬学 14. 複合領域

[職階] 1. 助手・助教 2. 講師 3. 准教授 4. 教授 5. その他

II 次に、あなたが普段おこなっている授業のようすについておたずねします。

【問 3】あなたは、次のような授業や業務に関することがどの程度当てはまりますか。それぞれについて、最も近いもの1つに○をしてください。

	当てはまる	やや当てはまる	いえない	どちらとも	はまらない	あまり当てはまらない	当てはまらない
A. 授業の準備に時間を多くかけている	1	2	3	4	5		
B. 今のところ、自分が担当する授業はうまくいっていると思う	1	2	3	4	5		
C. 授業の形式・評価方法は毎年見直すようにしている	1	2	3	4	5		
D. 研究活動の時間は十分に確保できている	1	2	3	4	5		
E. 授業以外の業務に時間が多くかかっている	1	2	3	4	5		

【問 4】あなたは、自分が担当している授業ではどのようなことを重視していますか。それぞれについて、最も近いもの1つに○をしてください。

	重視している	とても重視している	やや重視している	いえない	どちらとも	していない	あまり重視していない	全く重視していない
A. 学生が知識、情報を獲得する	1	2	3	4	5			

B.	学生が授業で獲得した知識・情報と自己の関心事を結びつけて考える	1	2	3	4	5
C.	学生が授業で獲得した知識・情報を、現在や今後の生活に活用する	1	2	3	4	5

【問 5】あなたは、次にあげるような授業の手法についてどの程度経験がおありですか。実践したことがあるかどうか、実践したことがなくても知っているかどうかなどについて、それぞれ最も近いもの1つを選んでください。

		今も実践している	過去に実践したことがある	実践したことはないが、知っている	知らない
A：事前学習型授業	授業外に、次回の講義で学習する箇所について教科書や参考書等による事前学習をさせた上で、授業時に事前学習に基づく演習を行わせる方法（ただし動画教材は除く）。	1	2	3	4
B：反転授業	授業外に、講義で学習する箇所について動画教材を用いて事前学習させた上で、授業時に事前学習に基づく演習を行わせる方法。	1	2	3	4
C：調査学習	学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。	1	2	3	4
D：フィールドワーク	学内外のフィールドに赴き、調査や観察を通して情報収集を行わせる方法（学外施設等の見学を含む）。	1	2	3	4
E：双方向アンケート	授業中に IT 機器やクリッカー、あるいはコメントペーパー等を利用して、教員と学生による双方向的な対話を行わせる方法。	1	2	3	4
F：グループワーク	学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法。2人組によるペアワークも含む。	1	2	3	4
G：対話・議論型授業	授業中に特定のテーマについて対話又はディスカッションを通して理解を深める方法。特定のルール下で議論の勝敗を競うディベート方式も含む。	1	2	3	4
H：ロールプレイ	学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。	1	2	3	4
I：プレゼンテーション	学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。	1	2	3	4
J：模擬授業	教員養成科目等において、自ら授業計画を立てさせ、他の学生の前等で実際に授業の練習を行わせる方法。	1	2	3	4
K：PBL	テーマに沿ったプロジェクト又は特定の問題を提示し、それらの問題解決を通して、様々な知識・スキルを学ばせる方法。	1	2	3	4

※出典：それぞれの名称と内容の説明については、静岡大学大学教育センターによる。  
(URL:<https://web.hedc.shizuoka.ac.jp/projects/active-learning/category/>)



III 次に、アクティブラーニングに関するお考えなどについてお訊ねします。

【問 6】あなたの考える「アクティブラーニング」のイメージについてお訊ねします。次の (A) ~ (C) について、それぞれあなたがイメージされている内容について、具体的にお書きください。

(A) あなたは、アクティブラーニングとはどのような取り組みだと考えていますか。

(B) アクティブラーニングを実施することでどのような教育上の効果があるとお考えですか。

(C) 今後、アクティブラーニングのような学びををひろげていくとしたら、どのようなことが必要になるとお考えですか。

【問 7】あなたはこれまで、アクティブラーニングの研修会に参加された経験はありますか。以下に挙げるもののうち、あなたが参加されたことのあるものすべてに○をしてください。

- 1. 学内で実施された研修会（職場で参加が義務付けられていたもの）
  - 2. 学内で実施された研修会（自由参加のもの）
  - 3. 学外で実施された研修会（職場で参加が義務付けられていたもの）
  - 4. 学外で実施された研修会（自由参加のもの）
  - 5. どれも参加したことがない
- 【問 7-1】にお進みください
- 【問 8】にお進みください

【問 7-1】あなたは、これまで参加した研修会で学んだ方法を、ご自身の授業で実践してみたことがありますか。どちらか1つに○をしてください。

- 1. 学んだ方法を実践してみたことがある
- 2. 学んだ方法を実践してみたことはない

【問 8】アクティブラーニングに関する次のようなことについて、あなたはどの程度当てはまりますか。それぞれ、最も近いもの1つに○をしてください。

	当てはまる	やや当てはまる	どちらともいえない	あまり当てはまらない	当てはまらない
A. アクティブラーニングの手法を、授業で取り入れていきたいと思う	1	2	3	4	5
B. アクティブラーニングについて、新たな手法を勉強したいと思う	1	2	3	4	5
C. 正直、アクティブラーニングというものがよく分からない	1	2	3	4	5

質問は以上です。  
長時間ご協力いただき、誠にありがとうございました。

## [教員実態調査]基礎集計

性別		度数	%	有効%	累積%
有効	女性	86	33.1	34.0	34.0
	男性	167	64.2	66.0	100.0
	合計	253	97.3	100.0	
欠損値	答えない	7	2.7		
合計		260	100.0		

年齢		度数	%	有効%	累積%
有効	39歳以下	30	11.5	11.8	11.8
	40代	79	30.4	31.1	42.9
	50代	86	33.1	33.9	76.8
	60歳以上	59	22.7	23.2	100
	合計	254	97.7	100	
欠損値		6	2.3		
合計		260	100.0		

職階		度数	%	有効%	累積%
有効	助手・助教	17	6.5	6.8	6.8
	講師	56	21.5	22.3	29.1
	准教授	73	28.1	29.1	58.2
	教授	105	40.4	41.8	100
	合計	251	96.5	100	
欠損値	その他	9	3.5		
合計		260	100.0		

専門分野		度数	%	有効%	累積%
有効	文系	71	27.3	32.1	32.1
	理系	129	49.6	58.4	90.5
	複合領域	21	8.1	9.5	100.0
	合計	221	85.0	100.0	
欠損値		39	15.0		
合計		260	100.0		

【q03a】業務実態：授業の準備に時間を多くかけている

		当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計	N	有意確率
性別	女性	45.3	47.7	5.8	1.2	0.0	100.0	86	0.170
	男性	47.9	35.8	10.9	4.2	1.2	100.0	165	
年齢	39歳以下	48.3	37.9	6.9	3.4	3.4	100.0	29	0.215
	40代	37.2	44.9	9.0	7.7	1.3	100.0	78	
	50代	50.0	37.2	11.6	1.2	0.0	100.0	86	
	60歳以上	52.5	39.0	8.5	0.0	0.0	100.0	59	
職階	助手・助教	47.1	23.5	17.6	11.8	0.0	100.0	17	0.013
	講師	55.6	37.0	3.7	1.9	1.9	100.0	54	
	准教授	45.2	45.2	2.7	5.5	1.4	100.0	73	
	教授	42.9	41.9	15.2	0.0	0.0	100.0	105	
専門分野	文系	48.6	41.4	7.1	1.4	1.4	100.0	70	0.867
	理系	45.3	39.1	10.2	4.7	0.8	100.0	128	
	複合領域	42.9	42.9	14.3	0.0	0.0	100.0	21	
合計		46.9	39.8	9.4	3.1	0.8	100.0	254	

【q03b】業務実態：今のところ、自分が担当する授業はうまくいっていると思う

		当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計	N	有意確率
性別	女性	23.3	54.7	20.9	1.2	0.0	100.0	86	0.924
	男性	21.2	57.0	19.4	1.8	0.6	100.0	165	
年齢	39歳以下	20.7	48.3	24.1	3.4	3.4	100.0	29	0.033
	40代	11.5	62.8	23.1	2.6	0.0	100.0	78	
	50代	22.1	59.3	18.6	0.0	0.0	100.0	86	
	60歳以上	35.6	44.1	18.6	1.7	0.0	100.0	59	
職階	助手・助教	23.5	41.2	29.4	5.9	0.0	100.0	17	0.426
	講師	27.8	51.9	16.7	1.9	1.9	100.0	54	
	准教授	13.7	60.3	24.7	1.4	0.0	100.0	73	
	教授	23.8	57.1	18.1	1.0	0.0	100.0	105	
専門分野	文系	24.3	54.3	17.1	2.9	1.4	100.0	70	0.769
	理系	20.3	54.7	23.4	1.6	0.0	100.0	128	
	複合領域	14.3	61.9	23.8	0.0	0.0	100.0	21	
合計		21.7	55.9	20.5	1.6	0.4	100.0	254	

【q03c】業務実態：授業の形式・評価方法は毎年見直すようにしている

		当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計	N	有意確率
性別	女性	51.2	40.7	8.1	0.0	0.0	100.0	86	0.013
	男性	33.3	46.7	12.1	6.1	1.8	100.0	165	
年齢	39歳以下	48.3	41.4	3.4	3.4	3.4	100.0	29	0.251
	40代	28.2	57.7	10.3	2.6	1.3	100.0	78	
	50代	39.5	41.9	14.0	4.7	0.0	100.0	86	
	60歳以上	47.5	32.2	13.6	5.1	1.7	100.0	59	
職階	助手・助教	35.3	52.9	11.8	0.0	0.0	100.0	17	0.165
	講師	61.1	31.5	3.7	1.9	1.9	100.0	54	
	准教授	37.0	43.8	12.3	5.5	1.4	100.0	73	
	教授	32.4	46.7	15.2	4.8	1.0	100.0	105	
専門分野	文系	45.7	37.1	8.6	7.1	1.4	100.0	70	0.130
	理系	37.5	44.5	14.1	2.3	1.6	100.0	128	
	複合領域	23.8	71.4	4.8	0.0	0.0	100.0	21	
合計		39.4	44.1	11.4	3.9	1.2	100.0	254	

【q03d】業務実態：研究活動の時間は十分に確保できている

		当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計	N	有意確率
性別	女性	5.8	18.6	20.9	32.6	22.1	100.0	86	0.438
	男性	4.8	15.2	24.2	41.2	14.5	100.0	165	
年齢	39歳以下	3.4	10.3	17.2	55.2	13.8	100.0	29	0.073
	40代	5.1	12.8	20.5	39.7	21.8	100.0	78	
	50代	3.5	12.8	29.1	34.9	19.8	100.0	86	
	60歳以上	8.5	28.8	23.7	32.2	6.8	100.0	59	
職階	助手・助教	11.8	11.8	23.5	35.3	17.6	100.0	17	0.579
	講師	5.6	14.8	25.9	38.9	14.8	100.0	54	
	准教授	2.7	13.7	16.4	49.3	17.8	100.0	73	
	教授	5.7	20.0	27.6	30.5	16.2	100.0	105	
専門分野	文系	8.6	22.9	18.6	34.3	15.7	100.0	70	0.124
	理系	3.9	12.5	25.8	39.1	18.8	100.0	128	
	複合領域	0.0	4.8	19.0	61.9	14.3	100.0	21	
合計		5.1	16.1	23.6	38.2	16.9	100.0	254	

【q03e】業務実態：授業以外の業務に時間が多くかかっている

		当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計	N	有意確率
性別	女性	38.4	32.6	20.9	8.1	0.0	100.0	86	0.279
	男性	42.7	32.9	14.6	6.1	3.7	100.0	164	
年齢	39歳以下	34.5	34.5	10.3	17.2	3.4	100.0	29	0.318
	40代	44.9	35.9	15.4	3.8	0.0	100.0	78	
	50代	43.5	30.6	18.8	3.5	3.5	100.0	85	
	60歳以上	35.6	30.5	20.3	10.2	3.4	100.0	59	
職階	助手・助教	35.3	41.2	5.9	17.6	0.0	100.0	17	0.214
	講師	27.8	42.6	24.1	3.7	1.9	100.0	54	
	准教授	47.2	29.2	18.1	4.2	1.4	100.0	72	
	教授	45.7	28.6	14.3	8.6	2.9	100.0	105	
専門分野	文系	52.2	26.1	11.6	7.2	2.9	100.0	69	0.320
	理系	34.4	35.9	20.3	7.0	2.3	100.0	128	
	複合領域	57.1	23.8	14.3	4.8	0.0	100.0	21	
合計		41.5	32.4	17.0	6.7	2.4	100.0	253	

【q04a】授業時重視事項：学生が知識、情報を獲得する

		とても重視している	やや重視している	あまり重視していない	全く重視していない	合計	N	有意確率
性別	女性	5.8	18.6	20.9	32.6	100.0	86	0.822
	男性	4.8	15.2	24.2	41.2	100.0	165	
年齢	39歳以下	60.7	35.7	0.0	3.6	100.0	28	0.219
	40代	50.7	48.0	1.3	0.0	100.0	75	
	50代	57.8	38.6	3.6	0.0	100.0	83	
	60歳以上	62.1	36.2	1.7	0.0	100.0	58	
職階	助手・助教	68.8	31.3	0.0	0.0	100.0	16	0.139
	講師	48.1	50.0	0.0	1.9	100.0	54	
	准教授	56.5	37.7	5.8	0.0	100.0	69	
	教授	61.8	37.3	1.0	0.0	100.0	102	
専門分野	文系	66.7	30.3	1.5	1.5	100.0	66	0.059
	理系	56.5	42.7	0.8	0.0	100.0	124	
	複合領域	52.4	38.1	9.5	0.0	100.0	21	
合計		56.9	40.7	2.0	0.4	100.0	246	

【q04b】授業時重視事項：学生が授業で獲得した知識・情報と自己の関心事を結びつけて考える

		とても重視 している	やや重視 している	あまり重視 していない	全く重視 していない	合計	N	有意確率
性別	女性	74.1	24.7	1.2	0.0	100.0	81	0.001
	男性	47.4	49.3	2.6	0.7	100.0	152	
年齢	39歳以下	74.1	22.2	0.0	3.7	100.0	27	0.036
	40代	54.3	45.7	0.0	0.0	100.0	70	
	50代	59.0	37.2	3.8	0.0	100.0	78	
	60歳以上	46.6	50.0	3.4	0.0	100.0	58	
職階	助手・助教	68.8	25.0	6.3	0.0	100.0	16	0.139
	講師	70.6	27.5	0.0	2.0	100.0	51	
	准教授	56.3	40.6	3.1	0.0	100.0	64	
	教授	50.0	48.0	2.0	0.0	100.0	100	
専門分野	文系	63.6	33.3	1.5	1.5	100.0	66	0.501
	理系	52.2	45.2	2.6	0.0	100.0	115	
	複合領域	61.9	38.1	0.0	0.0	100.0	21	
合計		56.6	40.9	2.1	0.4	100.0	235	

【q04c】授業時重視事項：学生が授業で獲得した知識・情報を、現在や今後の生活に活用する

		とても重視 している	やや重視 している	あまり重視 していない	全く重視 していない	合計	N	有意確率
性別	女性	76.3	23.8	0.0	0.0	100.0	80	0.005
	男性	52.9	44.4	2.0	0.7	100.0	153	
年齢	39歳以下	62.1	34.5	0.0	3.4	100.0	29	0.070
	40代	47.8	50.7	1.4	0.0	100.0	69	
	50代	64.2	34.6	1.2	0.0	100.0	81	
	60歳以上	71.7	26.4	1.9	0.0	100.0	53	
職階	助手・助教	78.6	21.4	0.0	0.0	100.0	14	0.284
	講師	69.2	28.8	0.0	1.9	100.0	52	
	准教授	52.1	45.1	2.8	0.0	100.0	71	
	教授	62.4	36.6	1.1	0.0	100.0	93	
専門分野	文系	66.7	30.4	1.4	1.4	100.0	69	0.240
	理系	54.1	45.9	0.0	0.0	100.0	111	
	複合領域	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	21	
合計		61.1	37.2	1.3	0.4	100.0	234	

【q05a】AL実態：事前学習型授業

		今も実践 している	過去に実践 したことが ある	実践したこと はないが、 知っている	知らない	合計	N	有意確率
性別	女性	46.5	22.1	30.2	1.2	100.0	86	0.924
	男性	46.4	22.3	28.9	2.4	100.0	166	
年齢	39歳以下	33.3	20.0	46.7	0.0	100.0	30	0.352
	40代	51.3	16.7	29.5	2.6	100.0	78	
	50代	44.2	25.6	26.7	3.5	100.0	86	
	60歳以上	49.2	25.4	25.4	0.0	100.0	59	
職階	助手・助教	52.9	5.9	41.2	0.0	100.0	17	0.693
	講師	54.5	20.0	23.6	1.8	100.0	55	
	准教授	42.5	26.0	28.8	2.7	100.0	73	
	教授	45.7	22.9	30.5	1.0	100.0	105	
専門分野	文系	46.5	18.3	33.8	1.4	100.0	71	0.664
	理系	47.7	17.2	33.6	1.6	100.0	128	
	複合領域	47.6	33.3	19.0	0.0	100.0	21	
合計		46.7	22.0	29.4	2.0	100.0	255	

【q05b】AL実態：反転授業

		今も実践 している	過去に実践 したことが ある	実践したこと はないが、 知っている	知らない	合計	N	有意確率
性別	女性	21.2	25.9	50.6	2.4	100.0	85	0.223
	男性	25.3	15.1	56.6	3.0	100.0	166	
年齢	39歳以下	17.2	24.1	58.6	0.0	100.0	29	0.504
	40代	19.2	16.7	62.8	1.3	100.0	78	
	50代	27.9	20.9	47.7	3.5	100.0	86	
	60歳以上	28.8	15.3	50.8	5.1	100.0	59	
職階	助手・助教	29.4	11.8	58.8	0.0	100.0	17	0.463
	講師	25.9	29.6	44.4	0.0	100.0	54	
	准教授	24.7	13.7	57.5	4.1	100.0	73	
	教授	23.8	19.0	54.3	2.9	100.0	105	
専門分野	文系	16.9	29.6	52.1	1.4	100.0	71	0.184
	理系	26.6	15.6	56.3	1.6	100.0	128	
	複合領域	38.1	19.0	42.9	0.0	100.0	21	
合計		24.4	18.9	53.9	2.8	100.0	254	

【q05c】AL実態：調査学習

		今も実践 している	過去に実践 したことが ある	実践したこと はないが、 知っている	知らない	合計	N	有意確率
性別	女性	71.4	17.9	9.5	1.2	100.0	84	0.286
	男性	62.7	16.9	18.1	2.4	100.0	166	
年齢	39歳以下	51.7	17.2	27.6	3.4	100.0	29	0.457
	40代	74.0	14.3	10.4	1.3	100.0	77	
	50代	59.3	20.9	17.4	2.3	100.0	86	
	60歳以上	69.5	16.9	11.9	1.7	100.0	59	
職階	助手・助教	47.1	0.0	47.1	5.9	100.0	17	0.015
	講師	69.8	17.0	11.3	1.9	100.0	53	
	准教授	69.9	15.1	12.3	2.7	100.0	73	
	教授	63.8	21.9	13.3	1.0	100.0	105	
専門分野	文系	76.1	16.9	7.0	0.0	100.0	71	0.029
	理系	57.5	18.1	21.3	3.1	100.0	127	
	複合領域	81.0	14.3	4.8	0.0	100.0	21	
合計		65.6	17.4	15.0	2.0	100.0	253	

【q05d】AL実態：フィールドワーク

		今も実践 している	過去に実践 したことが ある	実践したこと はないが、 知っている	知らない	合計	N	有意確率
性別	女性	34.9	24.4	39.5	1.2	100.0	86	0.428
	男性	30.7	18.7	50.0	0.6	100.0	166	
年齢	39歳以下	36.7	23.3	40.0	0.0	100.0	30	0.797
	40代	30.8	19.2	50.0	0.0	100.0	78	
	50代	30.2	19.8	47.7	2.3	100.0	86	
	60歳以上	35.6	22.0	42.4	0.0	100.0	59	
職階	助手・助教	29.4	11.8	52.9	5.9	100.0	17	0.282
	講師	29.1	25.5	43.6	1.8	100.0	55	
	准教授	34.2	16.4	49.3	0.0	100.0	73	
	教授	33.3	23.8	42.9	0.0	100.0	105	
専門分野	文系	39.4	29.6	31.0	0.0	100.0	71	0.019
	理系	26.6	15.6	56.3	1.6	100.0	128	
	複合領域	23.8	28.6	47.6	0.0	100.0	21	
合計		32.2	20.8	46.3	0.8	100.0	255	

【q05e】AL実態：双方向アンケート

		今も実践 している	過去に実践 したことが ある	実践したこと はないが、 知っている	知らない	合計	N	有意確率
性別	女性	61.2	11.8	22.4	4.7	100.0	85	0.009
	男性	38.8	17.6	38.2	5.5	100.0	165	
年齢	39歳以下	44.8	17.2	31.0	6.9	100.0	29	0.316
	40代	57.7	12.8	23.1	6.4	100.0	78	
	50代	41.9	18.6	34.9	4.7	100.0	86	
	60歳以上	36.2	15.5	44.8	3.4	100.0	58	
職階	助手・助教	41.2	17.6	29.4	11.8	100.0	17	0.120
	講師	59.3	13.0	20.4	7.4	100.0	54	
	准教授	46.6	13.7	35.6	4.1	100.0	73	
	教授	41.3	19.2	38.5	1.0	100.0	104	
専門分野	文系	54.9	16.9	25.4	2.8	100.0	71	0.181
	理系	37.8	16.5	39.4	6.3	100.0	127	
	複合領域	57.1	14.3	28.6	0.0	100.0	21	
合計		46.2	15.8	32.8	5.1	100.0	253	

【q05f】AL実態：グループワーク

		今も実践 している	過去に実践 したことが ある	実践したこと はないが、 知っている	知らない	合計	N	有意確率
性別	女性	91.8	4.7	3.5	0.0	100.0	85	0.001
	男性	71.1	14.5	14.5	0.0	100.0	166	
年齢	39歳以下	79.3	13.8	6.9	0.0	100.0	29	0.200
	40代	85.9	7.7	6.4	0.0	100.0	78	
	50代	76.7	9.3	14.0	0.0	100.0	86	
	60歳以上	67.8	18.6	13.6	0.0	100.0	59	
職階	助手・助教	41.2	17.6	29.4	0.0	100.0	17	0.712
	講師	59.3	13.0	20.4	0.0	100.0	54	
	准教授	46.6	13.7	35.6	0.0	100.0	73	
	教授	41.3	19.2	38.5	0.0	100.0	104	
専門分野	文系	85.9	14.1	0.0	0.0	100.0	71	0.008
	理系	74.2	10.2	15.6	0.0	100.0	128	
	複合領域	81.0	14.3	4.8	0.0	100.0	21	
合計		78.0	11.4	10.6	0.0	100.0	254	

【q05g】AL実態：対話・議論型授業

		今も実践 している	過去に実践 したことが ある	実践したこと はないが、 知っている	知らない	合計	N	有意確率
性別	女性	74.1	10.6	15.3	0.0	100.0	85	0.007
	男性	53.0	12.0	33.7	1.2	100.0	166	
年齢	39歳以下	51.7	13.8	34.5	0.0	100.0	29	0.477
	40代	66.7	7.7	25.6	0.0	100.0	78	
	50代	55.8	16.3	25.6	2.3	100.0	86	
	60歳以上	61.0	10.2	28.8	0.0	100.0	59	
職階	助手・助教	64.7	11.8	23.5	0.0	100.0	17	0.955
	講師	64.8	11.1	22.2	1.9	100.0	54	
	准教授	58.9	13.7	26.0	1.4	100.0	73	
	教授	61.0	10.5	28.6	0.0	100.0	105	
専門分野	文系	70.4	12.7	16.9	0.0	100.0	71	0.088
	理系	50.8	14.1	33.6	1.6	100.0	128	
	複合領域	71.4	4.8	23.8	0.0	100.0	21	
合計		60.2	11.8	27.2	0.8	100.0	254	



【q05h】AL実態：ロールプレイ

		今も実践 している	過去に実践 したことが ある	実践したこと はないが、 知っている	知らない	合計	N	有意確率
性別	女性	40.0	24.7	34.1	1.2	100.0	85	0.000
	男性	18.1	14.5	61.4	6.0	100.0	166	
年齢	39歳以下	20.7	13.8	65.5	0.0	100.0	29	0.581
	40代	29.5	15.4	47.4	7.7	100.0	78	
	50代	25.6	18.6	53.5	2.3	100.0	86	
	60歳以上	23.7	22.0	49.2	5.1	100.0	59	
職階	助手・助教	52.9	5.9	41.2	0.0	100.0	17	0.136
	講師	35.2	18.5	44.4	1.9	100.0	54	
	准教授	21.9	21.9	52.1	4.1	100.0	73	
	教授	21.0	16.2	57.1	5.7	100.0	105	
専門分野	文系	22.5	23.9	47.9	5.6	100.0	71	0.006
	理系	21.9	10.2	63.3	4.7	100.0	128	
	複合領域	33.3	38.1	23.8	4.8	100.0	21	
合計		26.4	17.7	51.6	4.3	100.0	254	

【q05i】AL実態：プレゼンテーション

		今も実践 している	過去に実践 したことが ある	実践したこと はないが、 知っている	知らない	合計	N	有意確率
性別	女性	85.9	11.8	1.2	1.2	100.0	85	0.005
	男性	72.3	13.9	13.9	0.0	100.0	166	
年齢	39歳以下	65.5	17.2	17.2	0.0	100.0	29	0.466
	40代	75.6	17.9	6.4	0.0	100.0	78	
	50代	77.9	10.5	10.5	1.2	100.0	86	
	60歳以上	83.1	8.5	8.5	0.0	100.0	59	
職階	助手・助教	82.4	11.8	5.9	0.0	100.0	17	0.444
	講師	70.4	14.8	14.8	0.0	100.0	54	
	准教授	75.3	16.4	8.2	0.0	100.0	73	
	教授	83.8	8.6	7.6	0.0	100.0	105	
専門分野	文系	81.7	16.9	1.4	0.0	100.0	71	0.063
	理系	76.6	10.9	12.5	0.0	100.0	128	
	複合領域	85.7	9.5	4.8	0.0	100.0	21	
合計		77.2	13.0	9.4	0.4	100.0	254	

【q05j】AL実態：模擬授業

		今も実践 している	過去に実践 したことが ある	実践したこと はないが、 知っている	知らない	合計	N	有意確率
性別	女性	14.3	25.0	56.0	4.8	100.0	84	0.030
	男性	10.3	12.1	69.1	8.5	100.0	165	
年齢	39歳以下	13.8	24.1	55.2	6.9	100.0	29	0.332
	40代	10.3	10.3	73.1	6.4	100.0	78	
	50代	9.4	14.1	69.4	7.1	100.0	85	
	60歳以上	13.8	25.9	51.7	8.6	100.0	58	
職階	助手・助教	5.9	11.8	70.6	11.8	100.0	17	0.669
	講師	13.0	20.4	55.6	11.1	100.0	54	
	准教授	15.1	12.3	67.1	5.5	100.0	73	
	教授	10.7	18.4	66.0	4.9	100.0	103	
専門分野	文系	18.3	22.5	53.5	5.6	100.0	71	0.005
	理系	6.3	9.4	75.8	8.6	100.0	128	
	複合領域	15.0	25.0	60.0	0.0	100.0	20	
合計		11.9	16.7	64.3	7.1	100.0	252	

【q05k】AL実態：PBL

		今も実践 している	過去に実践 したことが ある	実践したこと はないが、 知っている	知らない	合計	N	有意確率
性別	女性	29.4	21.2	37.6	11.8	100.0	85	0.619
	男性	31.9	15.1	38.0	15.1	100.0	166	
年齢	39歳以下	27.6	20.7	41.4	10.3	100.0	29	0.715
	40代	29.5	14.1	41.0	15.4	100.0	78	
	50代	29.1	15.1	40.7	15.1	100.0	86	
	60歳以上	37.3	23.7	27.1	11.9	100.0	59	
職階	助手・助教	5.9	5.9	58.8	29.4	100.0	17	0.044
	講師	24.1	24.1	35.2	16.7	100.0	54	
	准教授	31.5	15.1	42.5	11.0	100.0	73	
	教授	39.0	18.1	32.4	10.5	100.0	105	
専門分野	文系	38.0	21.1	31.0	9.9	100.0	71	0.309
	理系	30.5	15.6	42.2	11.7	100.0	128	
	複合領域	38.1	9.5	28.6	23.8	100.0	21	
合計		31.5	17.3	37.4	13.8	100.0	254	

【q07 1】研修会参加経験：学内研修会（参加義務あり）

		参加経験 あり	参加経験 なし	合計	N	有意確率
性別	女性	47.7	52.3	100.0	86	0.343
	男性	54.0	46.0	100.0	163	
年齢	39歳以下	35.7	64.3	100.0	28	0.018
	40代	65.4	34.6	100.0	78	
	50代	48.8	51.2	100.0	86	
	60歳以上	44.8	55.2	100.0	58	
職階	助手・助教	37.5	62.5	100.0	16	0.636
	講師	54.7	45.3	100.0	53	
	准教授	54.8	45.2	100.0	73	
	教授	53.3	46.7	100.0	105	
専門分野	文系	45.1	54.9	100.0	71	0.096
	理系	58.7	41.3	100.0	126	
	複合領域	66.7	33.3	100.0	21	
合計		52.0	48.0	100.0	252	

【q07 2】研修会参加経験：学内研修会（参加義務なし）

		参加経験 あり	参加経験 なし	合計	N	有意確率
性別	女性	44.2	55.8	100.0	86	0.855
	男性	45.4	54.6	100.0	163	
年齢	39歳以下	35.7	64.3	100.0	28	0.433
	40代	39.7	60.3	100.0	78	
	50代	50.0	50.0	100.0	86	
	60歳以上	46.6	53.4	100.0	58	
職階	助手・助教	25.0	75.0	100.0	16	0.338
	講師	50.9	49.1	100.0	53	
	准教授	46.6	53.4	100.0	73	
	教授	45.7	54.3	100.0	105	
専門分野	文系	50.7	49.3	100.0	71	0.107
	理系	42.9	57.1	100.0	126	
	複合領域	66.7	33.3	100.0	21	
合計		44.8	55.2	100.0	252	

【q07\_3】研修会参加経験：学外研修会（職場義務あり）

		参加経験 あり	参加経験 なし	合計	N	有意確率
性別	女性	14.0	86.0	100.0	86	0.326
	男性	9.8	90.2	100.0	163	
年齢	39歳以下	7.1	92.9	100.0	28	0.462
	40代	7.7	92.3	100.0	78	
	50代	11.6	88.4	100.0	86	
	60歳以上	15.5	84.5	100.0	58	
職階	助手・助教	6.3	93.8	100.0	16	0.018
	講師	18.9	81.1	100.0	53	
	准教授	2.7	97.3	100.0	73	
	教授	15.2	84.8	100.0	105	
専門分野	文系	16.9	83.1	100.0	71	0.406
	理系	10.3	89.7	100.0	126	
	複合領域	14.3	85.7	100.0	21	
合計		11.5	88.5	100.0	252	

【q07\_4】研修会参加経験：学外研修会（職場義務なし）

		参加経験 あり	参加経験 なし	合計	N	有意確率
性別	女性	43.0	57.0	100.0	86	0.032
	男性	29.4	70.6	100.0	163	
年齢	39歳以下	35.7	64.3	100.0	28	0.740
	40代	32.1	67.9	100.0	78	
	50代	31.4	68.6	100.0	86	
	60歳以上	39.7	60.3	100.0	58	
職階	助手・助教	18.8	81.3	100.0	16	0.086
	講師	45.3	54.7	100.0	53	
	准教授	27.4	72.6	100.0	73	
	教授	38.1	61.9	100.0	105	
専門分野	文系	42.3	57.7	100.0	71	0.196
	理系	30.2	69.8	100.0	126	
	複合領域	28.6	71.4	100.0	21	
合計		34.5	65.5	100.0	252	

【q07\_5】研修会参加経験：どれも参加したことがない

		選択	非選択	合計	N	有意確率
性別	女性	19.8	80.2	100.0	86	0.702
	男性	17.8	82.2	100.0	163	
年齢	39歳以下	32.1	67.9	100.0	28	0.251
	40代	15.4	84.6	100.0	78	
	50代	17.4	82.6	100.0	86	
	60歳以上	17.2	82.8	100.0	58	
職階	助手・助教	50.0	50.0	100.0	16	0.003
	講師	13.2	86.8	100.0	53	
	准教授	13.7	86.3	100.0	73	
	教授	15.2	84.8	100.0	105	
専門分野	文系	14.1	85.9	100.0	71	0.263
	理系	18.3	81.7	100.0	126	
	複合領域	4.8	95.2	100.0	21	
合計		18.3	81.7	100.0	252	

【q07x1】学んだ内容の実践経験

		学んだ方法を 実践してみた ことがある	学んだ方法を 実践してみた ことはない	%	合計	有意確率
性別	女性	85.9	14.1	100.0	71	0.006
	男性	68.4	31.6	100.0	133	
年齢	39歳以下	63.2	36.8	100.0	19	0.251
	40代	77.3	22.7	100.0	66	
	50代	77.5	22.5	100.0	71	
	60歳以上	68.8	31.3	100.0	48	
職階	助手・助教	100.0	0.0	100.0	8	0.141
	講師	78.7	21.3	100.0	47	
	准教授 教授	66.1 75.3	33.9 24.7	100.0 100.0	62 89	
専門分野	文系	73.3	26.7	100.0	60	0.652
	理系	70.2	29.8	100.0	104	
	複合領域	80.0	20.0	100.0	20	
合計		74.3	25.7	100.0	206	

【q08a】AL意識：アクティブラーニングの手法を、授業で取り入れていきたいと思う

		当てはまる	やや当て はまる	どちらでも ない	あまり当て はまらない	当てはまら ない	合計	N	有意確率
性別	女性	50.6	34.1	14.1	0.0	1.2	100.0	85	0.052
	男性	38.0	32.5	19.6	4.9	4.9	100.0	163	
年齢	39歳以下	44.8	34.5	20.7	0.0	0.0	100.0	29	0.435
	40代	34.6	35.9	23.1	3.8	2.6	100.0	78	
	50代	45.9	30.6	11.8	5.9	5.9	100.0	85	
	60歳以上	43.9	33.3	19.3	0.0	3.5	100.0	57	
職階	助手・助教	43.8	25.0	31.3	0.0	0.0	100.0	16	0.136
	講師	52.8	30.2	15.1	0.0	1.9	100.0	53	
	准教授 教授	38.4 40.8	28.8 39.8	21.9 13.6	6.8 1.0	4.9 4.9	100.0 100.0	73 103	
専門分野	文系	50.0	27.1	18.6	2.9	1.4	100.0	70	0.499
	理系	36.2	35.4	19.7	4.7	3.9	100.0	127	
	複合領域	38.1	33.3	19.0	0.0	9.5	100.0	21	
合計		42.0	33.2	18.0	3.2	3.6	100.0	250	

【q08b】AL意識：アクティブラーニングについて、新たな手法を勉強したいと思う

		当てはまる	やや当て はまる	どちらでも ない	あまり当て はまらない	当てはまら ない	合計	N	有意確率
性別	女性	41.2	35.3	18.8	2.4	2.4	100.0	85	0.127
	男性	27.6	36.2	23.9	6.7	5.5	100.0	163	
年齢	39歳以下	41.4	31.0	27.6	0.0	0.0	100.0	29	0.362
	40代	26.9	42.3	24.4	3.8	2.6	100.0	78	
	50代	32.9	28.2	24.7	7.1	7.1	100.0	85	
	60歳以上	35.1	40.4	14.0	7.0	3.5	100.0	57	
職階	助手・助教	56.3	31.3	12.5	0.0	0.0	100.0	16	0.223
	講師	39.6	32.1	26.4	1.9	0.0	100.0	53	
	准教授 教授	26.0 31.1	35.6 39.8	26.0 16.5	6.8 5.8	5.5 6.8	100.0 100.0	73 103	
専門分野	文系	38.6	27.1	24.3	8.6	1.4	100.0	70	0.076
	理系	26.0	40.2	24.4	5.5	3.9	100.0	127	
	複合領域	38.1	23.8	23.8	0.0	14.3	100.0	21	
合計		32.4	35.6	22.4	5.2	4.4	100.0	250	

【q08c】AL意識：正直、アクティブラーニングというものがよく分からない

		当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計	N	有意確率
性別	女性	2.4	9.6	25.3	28.9	33.7	100.0	83	0.436
	男性	7.4	11.7	21.5	31.9	27.6	100.0	163	
年齢	39歳以下	10.7	14.3	25.0	32.1	17.9	100.0	28	0.001
	40代	7.7	15.4	34.6	30.8	11.5	100.0	78	
	50代	6.0	6.0	17.9	27.4	42.9	100.0	84	
	60歳以上	0.0	10.5	15.8	35.1	38.6	100.0	57	
職階	助手・助教	18.8	6.3	50.0	12.5	12.5	100.0	16	0.003
	講師	5.8	7.7	17.3	40.4	28.8	100.0	52	
	准教授	5.5	16.4	30.1	26.0	21.9	100.0	73	
	教授	2.9	6.9	17.6	33.3	39.2	100.0	102	
専門分野	文系	2.9	11.4	32.9	24.3	28.6	100.0	70	0.482
	理系	7.9	10.3	21.4	33.3	27.0	100.0	126	
	複合領域	4.8	9.5	14.3	33.3	38.1	100.0	21	
合計		5.6	10.9	23.4	30.6	29.4	100.0	248	

---

## アクティブ・ラーニングに関する実態調査報告書 2024

### ■編集・発行

『主体的・対話的・深い学び』のための授業スキルに関する実態調査および  
その研修の効果検証」研究プロジェクト

2024年1月